



令和7年靖國神社の絵馬



第154号

公益財団法人 特攻隊戦没者
慰霊顕彰会

編集人 金子敬志
発行人 石井光政

印刷所 株式会社 SGネクスト
ホールディングス

目次

巻頭言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 理事長 岩崎 茂 2

各地慰霊祭等報告

長野縣護國神社「特攻勇士之像慰霊祭」・・・・・・・・・・・・・ 評議員 原 知崇 3

令和6年度明野忠魂塔慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 倉形桃代 4

長崎縣護國神社「特攻隊戦没者慰霊祭」・・・・・・・・・・・・・・ 専務理事 石井光政 5

神風特攻敷島隊五軍神追悼式・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 専務理事 石井光政 6

高知縣護國神社 特攻勇士の像慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・ 専務理事 石井光政 7

第三十二回 東雲飛行場戦没者慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 倉形桃代 8

令和6年度 埼玉県特攻隊慰霊祭・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会 員 渡 正人 9

回天烈士並びに回天搭載戦没潜水艦乗員追悼式 専務理事 石井光政 10

空の神兵のルーツを訪ねて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 評議員 長瀬彰孝 11

第51回若潮の塔慰霊祭に参列して・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 理 事 鮎田英一 14

会員等投稿

多田野語録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 株式会社タダノ最高顧問 多田野弘 16

ルソン島マバラカント慰霊祭に参加して・・・・・・・・・・・・・・ 小倉和彦 17

特攻隊員へのインタビュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会 員 中川法宏 19

沖縄海上特攻4.7冬月・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会 員 加藤 博 19

回天特別攻撃隊多門隊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 坂本雅俊 22

陸軍特別攻撃隊 第213振武隊・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 板津忠正 29

連載 山ある記29・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会 員 池田康博 37

顕彰譜(14)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 会 員 池田康博 38

芸欄 歌俳柳の広場

短歌・俳句・川柳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

事務局からの報告等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

挿絵提供 空目OB 宇山氏

「巻頭言」

公益財団法人

特攻隊戦没者慰霊顕彰会

理事長

岩崎 茂



令和7年が既に1ヶ月過ぎました。いかがお過ごしでしょうか？

昨年は、元日に能登半島地震、翌日に羽田空港での航空機の衝突事故が始まり、その後も集中豪雨、台風等々の自然災害が多く、そして春から秋までは異常な高温に悩まされ、秋が短く、急激に寒くなるという、大変な一年でしたが、本年は、昨年と比較すれば、穏やかな年の初めとなっており、曜日にも恵まれ、ゆっくと過ごされた方が多かったのではと拝察申し上げます。

我が国の正月は平穏な毎日ですが、一旦、世界に目を向ければ、ロシアによるウクライナ侵攻は、もうじき3年になるうとしていますし、イスラエルとヒズボラ・ハマスとの戦闘も拡大することはあっても収まる心配がみられません。そして、我が国周辺では、中国の海・空軍や海警局の活動は、年々規模が大きくなり、活発化してきますし、北朝鮮は、相変わらず、事ある毎に弾道弾発射を繰り返しています。極東ロシア軍の活動は、ウクライナ侵攻以前とほぼ変わらず定例化していますし、時々、中国海・空軍との協同訓練にも余念がありません。この様な中、これまで比較的安定していた韓国で年末に戒厳令が出され、未だに混乱状態が続いています。これに乗じて北朝鮮が何か仕掛けないか気になります。この様な中、米国ではトランプ大統領による2期目の政権が開始しました。選挙期間中や選挙後のトランプ氏の発言から、「今後どうなるだろう？」と各国が固唾をのんで見守っている状態です。

我が国では、衆議院で与党が過半数割れをしており、政府に対する支持率が低いものの、幸いにも、平穏な日々が享受できております。当にこれは、我々の先人方々の並々ならぬご努力のお陰です。

その先人の筆頭に挙げる事が出来るのは、身を賭して我が国を守るために戦い、不幸にも敵弾に散華された御英霊の方々です。今年は大東亜戦争終結から80年の節目の年です。この節目の年に当たって、各地では戦争や終戦に纏わるいろいろな行事が計画されています。私は、積極的に各行事に参加しようと考えていますし、多くの方々と語り合おうと考えております。

今年、3月29日(土)、当会の「第46回特攻隊全戦没者慰霊祭」を靖國神社で行う予定です。当会の会員の皆様方には、是非とも皆様方の友人知人もお誘いの上、当慰霊祭に、そして各地での慰霊行事に参加し、御英霊や先人方々に思いを馳せ、感謝御礼を申し上げる機会にして頂きたいとお願い申し上げます。

現在の我が国の繁栄と平和は、御英霊を始めとする先人の方々のご努力の賜物であることを深く認識し、改めて感謝・御礼申し上げます。



長野縣護國神社



長野縣護國神社「特攻勇士之像慰靈祭」に参列して

評議員 原 知崇

令和六年十月十日、長野縣護國神社において齋行された「特攻勇士之像慰靈祭」に参列して参りましたのでご報告いたします。

長野縣護國神社はかつて陸軍歩兵第五十聯隊に隣接した松本市美須々に鎮座します。美須々（みすず）とは水薦刈（みこもかる）が変化したとされる信濃国の枕詞に由来する美名で、それまでの長野縣招魂社が昭和十四年になり長野縣護國神社として改称されました。

賑やかな松本駅周辺から離れた住宅地にあり、堂々たる鳥居を潜ると樹木に囲

まれた一万坪余りと言われ、境内が広がっています。秋晴れの下、特攻勇士之像の前に敬者奉賛

会会長、長野県隊友会会長など9名ほどがご参列されました。例年は政界からも参列者があるとのことでした。祭典は十四時ちようどに開始され、厳かに執り行われました。

長野縣護國神社の特攻勇士之像は、特別攻撃隊員として戦没された長野県出身の英霊を顕彰するものです。海軍百三十二柱には航空特攻八十一名、特殊潜航艇十一名、回天四名、震洋三十六名。陸軍よび戦車十九名、海上挺身七名、併せ百九十五柱の御霊をお祀りするため、平成二十七年に奉納されました。以後この慰靈祭は毎年宮司様、奉賛会会長様をはじめご関係の皆様のお力で開催され、本年度九年目となります。副碑には「國の為 誠の道を一筋に 進み行くこそ大和魂」の言葉が刻まれています。この言葉を目にして、一切の私を捨て大義に生きることを大和魂のあるべき姿と捉え、決然と自らのその命と引き換えにして祖國を護ることに誠の道を見出した先人の尊い精神に想いを馳せると共に、特攻隊の初出撃から八十年を経て今私たちが生きる千変万化の世の中にあつて、いかにして次世代に英霊のお心を顕彰していくのか、さまざまな立場を越えて知恵を出しあつていかねばならない時期にあるの

長野県特攻勇士之像



ではないかと感じました。

祭事の後は直会が催され、皆様のご参加されました。松本は直接出撃をする基地ではありませんでしたが、陸軍の武揚隊、武剋隊などが昭和二十年に同地でそれぞれひと月ほどの訓練や機体の整備を行い九州へ向かつて行ったことを、当時その姿を見送った方から伺いました。隊員たちは浅間温泉に滞在し、子供たちとも交流を持ったこと、九州進出に際しては皆国旗を振つてお見送りされた事をお聞きしました。出撃を前にして、子供たちや土地の人との交流は、幾許かでも隊員たちの慰めになったでしょうか。そのような「送った側」のお話も、少しづつ聞くことが出来なくなっています。長野県ご在住の当会会員の皆様は、長野縣護國神社の特攻勇士之像慰靈祭に今後ともお力添えをいただけるよう、お願い申し上げます。

令和6年度 明野忠魂塔慰霊祭

評議員 倉形 桃代

令和6年10月19日(土) 11時より、陸上自衛隊明野駐屯地・航空学校(三重県伊勢市)に於いて、令和6年度明野忠魂塔慰霊祭が行われた。式典は祭壇を拵えた体育館「明桜館」内で行われた。前日は風雨が強かったが、当日は朝から暑い位の天気になった。

式典の前、ご遺族と旧陸軍飛行学校の将校集会所を利用した「明野航空記念館」



明野航空記念館

に立ち寄った。そこは、明野飛行学校に関する資料や、ご遺影・ご遺品も展示されている。戦史を知ると同時に、ご遺族にとっては、亡き肉親との「再会の場所」にもなっている。ご遺影を前に、時を超えた語らいがあるのだ。じっと佇み、時折話しかけていらっしやるお姿に、いつも心打たれている。その後、忠魂塔にもお参りした。青空に浮かぶ真っ白な塔が美しかった。周辺に敷かれた白い玉石は、毎朝英霊の後輩たる航空学生の方々が、清掃後に箒目をつけているそうだ。

慰霊祭は毎回、陸上自衛隊航空学校の全面支援を頂き、航空学校及び分校での殉職隊員16柱の追悼式と共に行われる。今年の明野忠魂塔顕彰会側の参列者は、ご遺族を含めて31名であった。

式次第は、開式の辞に始まり、陸上自衛隊中部方面音楽隊の吹奏に合わせて国歌斉唱、拝礼、儀仗、航空学校長・更谷光二陸将補、明野忠魂塔顕彰会・梶原久生会長による追悼の辞、ご遺族・参列者全員の献花、追悼電報披露、儀仗隊による弔銃、拝礼、閉会の辞と、滞りなく終了した。慰霊祭の参列者はご遺族や戦友の方々の参列が減る中、ご遺志を継がれた子供さんやお孫さんやの参列が増えている。縁の自衛隊OBの方々が顕彰会の

支援に奮闘されているお姿も頼もしく感じました。

式典後、場所を移して直会が行われた。どのような経緯で慰霊祭に参列したか。話題の中には、会員数が減少する中、将来どのように慰霊顕彰を続けていくか、SNS活用の検討等、様々な意見が交わされた。



明野忠魂塔

長崎縣護國神社「特攻隊戦没者慰霊祭」
参列報告

専務理事 石井 光政

令和6年10月22日(火)午前10時から、長崎縣護國神社拝殿内に於いて、同神社の月次祭に併せて、長崎県出身特攻隊戦没者106柱(陸軍43柱、海軍63柱)に対する「特攻隊戦没者慰霊祭」が斎行されました。

特攻像はコロナ禍の令和3年10月26日に奉納され、今年で3年目になります。当時の建立実行委員長 反田邦彦様、長崎縣護國神社 村田仁 宮司様をはじめ、厳しい環境下で建立・奉納に努めて下さった多くの方に感謝申し上げます。

慰霊祭当日は激しい雨が降り、雷も鳴っていました。村田宮司の祭詞奏上が始まる前から暫くたつと小雨になり、その中で慰霊祭は粛々かつ厳かに斎行され



終わって直会会場に移動する時には止んでいました。英霊のお気持ちも鎮まったのかと感じた次第です。

長崎市は原爆を投下され、多くの市民も犠牲になっており、そのため各地で多くの慰霊祭・追悼式が行われている様で、本慰霊祭の時期も、他の追悼式と被っていて、参列者が限定されるとのお話でした。その中でも国の命令で亡くなられた方の慰霊祭に参列して下さった方々には感謝申し上げます。



長崎縣護國神社拝殿

長崎県特攻勇士の像



拝殿の内部

第50回神風特攻敷島隊五軍神・愛媛県特攻戦没者追悼式典参列報告
専務理事 石井 光政

令和6年10月25日(金)、愛媛県西条市の榎本神社境内において、9時30分から敷島隊五軍神に対する神事が、引き続き10時30分から愛媛県出身特攻隊戦没者



の追悼式が行われました。

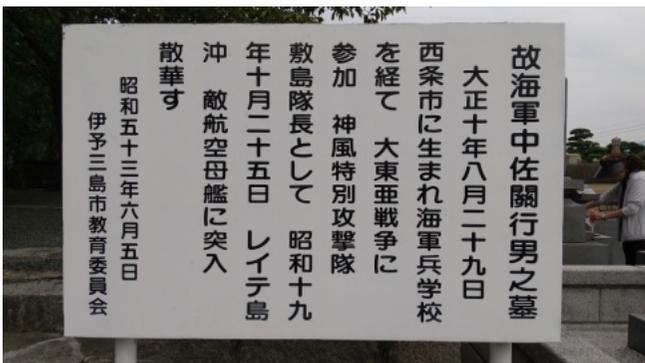
敷島隊は関中佐以下5名(関行男中佐(西条市)、中野磐雄少尉(福島県)、谷暢夫少尉(京都府)、長峰肇飛行兵曹長(宮崎県)、大黒繁雄飛行兵曹長(新居浜市))であり、愛媛県出身特攻隊戦没者は、五軍神の2名を含んで109柱(陸軍33柱、海軍76柱)です。

当日は80年前に敷島隊がフイリピンのマバラカット飛行場から飛び立ち、レイテ沖の敵艦隊に突入した、初めての特攻作戦開始の日(従って五軍神の80回目の命日)でもあり、200名を超える多くの方が参列されました。

式は、奉賛会の近藤千恵子様(追悼の詞を述べられたのちに、全員で黙祷、次に、村上敏行奉賛会会長が式辞を読まれ、引き続き、追悼の辞、献花、女声合唱団による追悼の歌奉納、旧海軍式儀仗の実施、全員による「海行かば」の斉唱と続き、軍艦旗降納で式は終了しました。西条市榎本神社の「関行男慰霊の碑」は昭和50年に同神社の神主の発願で、建立され、爾後、毎年10月25日に慰霊祭を斎行するようになったと伝えられています。

私は前日に西条市の隣の四国中央市にある関行男中佐のお墓にお参りしてきました。このお墓は、昭和29年10月25日にご母堂のサカエ様(昭和28年11月9日に

55歳で逝去)のご遺志により、松山市の旧海軍軍人の会「愛桜会」が、関家の菩提寺の中に建立したものです。「大義院釋曉忠居士」の戒名が刻まれています。



高知縣護國神社 特攻勇士の像慰霊祭
列報告
専務理事 石井 光政

令和6年10月26日(土) 11時から高知縣護國神社社殿に於いて、高知縣特攻勇士の像慰霊祭が斎行され、特攻顕彰会の藤田幸生会長と一緒に参列しました。特攻勇士の像は昨年10月に奉納されたので、今年は2回目です。

当日は大ぶりの雨でしたが、社殿には20名ほどの方が参列し、護國神社宮司による神事と、高知縣特攻勇士の像顕彰奉賛会会長で前参議院議員の中西哲氏による祭文奏上、全員による玉串奉奠を厳かに実23柱、海軍52柱の御霊安かれとお祈りしました。

終了後、社殿等有る山上から、大鳥居が有り、多くの慰霊碑が並ぶ場所まで階段を降り、特攻勇士の像にお参りし、集合写真を撮りましたが、その頃には雨もやみ、慰霊祭も滞りなく終了しました。建立にご支援ご協力いただいた、別役重具宮司、中西哲奉賛会会長をはじめ、多くの方々感謝申し上げます。



第三十二回 東雲飛行場戦没者慰霊祭

評議員 倉形 桃代

令和6年10月26日(土)午前11時より、能代鎮守八幡神社(秋田県能代市柳町)特攻勇士之像前に於いて、東雲(しのめ)飛行場戦没者慰霊顕彰會(代表・小野 立氏)主催、第32回東雲飛行場戦没者慰霊祭が斎行された。爽やかな秋の青空の下、木々の葉がやつと色づき始め、



特攻像前にはお供えと共に、陸軍能代飛行場ゆかりの28柱(殉職者18柱を含む)のご遺影が飾られていた。昨年祭主をされた八幡神社・淳城(ていじょう)英夫宮司は、今年の初めに亡くなられたとのこと。再会が叶わず残念であったが、境内を案内して頂いた事や穏やかな笑顔が懐かしく思い出された。

今回の参列者は14名と少なかったが、昨年欠席された前会長・武田安一氏(陸士60期・御歳100歳)も参列された。喇叭譜「國の鎮」に合わせて黙祷、開式の辞、国歌二唱、祭主・浅野悠二宮司助勤による修祓、降神之儀、献饌、祭詞奏上、今回初めて参列された、三浦龍畝様はじめ竹龍館会員の皆様による尺八古典本曲「手向(たむけ)」の奉納演奏、英霊御芳名奉唱、参列者全員による玉串奉奠、撤饌、昇神之儀、「國の鎮」齊唱、小野代表による主催者挨拶、「海ゆかば」二唱、閉会の辞を以て、慰霊祭は終了した。

その後、場所を移して行われた直会では、各々が自己紹介と慰霊祭に参列された経緯等を発表。武田氏は、戦時中の体験を交えた思い出を話され、何度も慰霊祭斎行への感謝のお言葉を述べられた。地元にお住まいで、戦中・戦後に滞在し

ていた軍関係者や進駐軍のお世話をされたお身内から語り伝えられた貴重なお話もあり、その伝承を絶やさないように記録したいと改めて感じた。

慰霊祭の前日、当時能代飛行場で訓練中の飛行兵が宿泊された、能代市旧料亭「金勇」(国登録有形文化財)を再訪した。八幡神社の参道、「金勇」の向かいには「料亭魚松」もあり、そこを往来していた人々の姿、当時の賑わいが偲ばれた。



能代市旧料亭「金勇」

令和6年度 埼玉県特攻隊慰霊祭
 会 員 渡 正 人

令和6年10月31日（金）。埼玉県護国神社で斎行されました埼玉県特攻隊慰霊祭に参列させて頂きましたので、ご報告致します。

秋晴れの空の下、式典は祭壇が持えられた埼玉県特攻勇士の像の前で行われました。平成25年に奉納されたこの像の裏には埼玉県出身者の特攻隊員の名前が刻まれています。

11時、トランペットの前奏に合わせて参列者全員による国歌斉唱から式典が始



まりました。黙祷、修祓、降神の儀、献饌の儀。続く祝詞奏上では埼玉県出身の特攻隊員102柱のお名前が一人一人奏上されます。続いて祭文奏上、偕行合唱団による「ふるさと」「同期の桜」「海ゆかば」の献歌。そして参列者全員が一人ずつ名前を呼ばれ前に出ての玉串奉奠、撤饌の儀、昇神の儀が行われ、最後の主催者挨拶では、今年新たに起ち上げられた埼玉県特攻隊戦没者慰霊顕彰会の柳澤濤昭会長が、特攻隊員一人一人のお名前を読み上げる事と参列者一人一人の名前を呼ばれて前に出る玉串奉奠に拘りたい旨を話されました。私事ですぐ番組制作

を生業にしており、限られた時間の中で伝えるために名前を割愛し数字しか伝えられない事が多々あります。令和6年能登半島地震のような緊急報道の時は、数字が生命の数と理解していても長時間向き合おうちに段々と数字だけを読む事が当たり前と心が麻痺していき、意識しないと数字の意味を見失いそうになる事を何度も経験しております。そのため、時間を要しても一人一人に拘りたい柳澤会長の言葉には大変共感しました。式典後の直会までの短い時間の間に、柳澤会長と岩崎茂理事長が埼玉県特攻勇士の像の裏に回り、桜花を抱いて出撃した一式陸上攻撃機特攻隊員のお話を聞かれています。その後の直会では献杯前の来賓の方々から挨拶をされ、岩崎理事長からは最初的神風特別攻撃隊が実施された10月25日にフリーピンマバラカットにて行われた慰霊顕彰祭の詳細を報告されました。その後、埼玉少飛会の石田行雄前会長が、香淳皇后の御歌を三度引用されながら少年兵たちを忘れないで欲しいと、魂を振り絞るように語られ、今後も時間の許す限りは慰霊顕彰祭に足を運びたいと、改めて思いました。石田前会長のお話を聞いて原宿の東郷神社で見た覚えがあると思いい出し、後日に立ち寄ってまいりました。手洗場脇に建立された「海軍特年兵之碑」に刻まれています。引用されたのは香淳皇后の御歌で、「やすらかにねむれとぞ思ふ君のためいのちささげ志ますらをのとも」1973年に香淳皇后が戦歿者へとお詠みになられたものです。

令和6年度回天烈士並びに回天搭載戦没 潜水艦乗員追悼式

専務理事 石井 光政

令和6年11月10日(日) 12時半から、回天の訓練基地であり、出撃地でもあった大津島(山口県周南市)にある回天慰霊碑前に於いて、回天の訓練中殉職者15柱、前進基地から出撃し戦死した9柱、潜水艦から発進し戦死した79柱(合計103柱)と大津島から出撃した潜水艦乗員で戦死した64柱の御霊を慰霊しました。当日の天候は穏やかで、周南市の港からの船旅も全く揺れず、大津島の全景も良く見えました。

船着き場近くには、回天神社が建立され、「回天の島」との門柱も建っており、慰霊祭の行われる回天記念館まで、なだらかな山道を昔を想像しながらゆっくり上っていききました。

記念館前には、戦没者の墓標が写真と共に整然と並んでおり、ところどころ花束も供えてありました。

慰霊祭開始までの間、地元の中学校、高校の生徒3人により、平和スピーチが紹介され、大津島や、平生町の回天史料館を訪問し感じたこと等を通じ、平和の尊さや、生きていることの価値、目的を考えるきっかけをつかんだ等が発表され

た。若い人達がこのようなことを考えるのは日本の将来にとって素晴らしいことだと感じた次第です。

慰霊祭は、ご遺族、ご来賓、近傍の陸海空自衛官も含め、200人以上が参列。回天顕彰会の原田茂会長の式辞に始まり、周南市市長、山口県知事代理による追悼のことば、全員による献花に続き、上空に海上自衛隊と航空自衛隊の練習機による追悼飛行がそれぞれ行われ、追悼電報披露、原田会長によるご挨拶、そしてご遺族代表によるご挨拶と続き、追悼式は滞りなく粛々と実施されました。

回天の基地は、大津島をはじめ、同じ山口県の平生市、光市と、豊後水道を挟んだ大分県の大神の4カ所ですが、これほど大規模に慰霊追悼を行っているところは、大津島であり、周南市をはじめ、現地の方々の回天戦没者に対する慰霊のお気持ちの大きさを感じた追悼式でした。



空の神兵のルーツを訪ねて

評議員 長瀬 彰孝

海上自衛隊は「旧海軍の伝統を引き継ぐ海上自衛隊」と堂々と呼称しますが、陸上自衛隊は残念ながら「旧陸軍と自衛隊は違います」と言います

その中であって「旧落下傘部隊の伝統を引き継ぐ第一空挺団は」と胸を張って語れる唯一の部隊です。特攻精神にも通ずる空挺魂「挺進赴難」の精神こそ旧軍から引き継ぐ標語です。

毎年十一月二十三日（新嘗祭）に行われる宮崎県川南護国神社で行われる秋季例大祭への参加に合わせ、旧落下傘部隊痕跡を訪ねました。

一 落下傘部隊訓練地の経緯

陸軍落下傘部隊は昭和十五年浜松で誕生、その後満州白城子に移転、寒さで訓練期間が限られることから、昭和十六年に軍馬補充部の牧場であった宮崎県川南が降下場に転用されこの地での訓練が始まりました。十七年には兵舎が建設され数千の兵が訓練に励みました。天下る落下傘兵は宮崎が天孫降臨の地であることから空の神兵と称され、村民の庇護のもと精強な部隊に錬成されました。

二 八勇士殉職の碑

落下傘降下に危険は付きまといまふ。公表された降下での殉職事故は三件です

が、他の事故も含め多くの隊員が亡くなったようです。

その一つが昭和十八年六月、小丸川水難事故です。隣町の高鍋で新任将校教育として渡河訓練中に増水した水流に流され八名の隊員がなくなりました。大事故にも関わらず死は伏せられました。川辺に碑が建立されましたが、昭和四十年護岸工事の際、小高い丘の小丸川を見下ろす場所に移転「忠烈 八勇士殉職の碑」が現存しています。

小丸川渡河訓練を計画した榊原中尉は責任を負って自決を試みますが聯隊長に諭されて思いとどまります。翌十九年聯隊がレイテに降下するとき地上部隊と連携の見込めないタクロバン降下部隊指揮官を志願し八名の位牌を抱いて搭乗、その後の消息は不明です。米軍資料では十三機全機撃滅されましたが、落下傘部隊の初めての特攻作戦に、殉職八柱の魂も参加したと言えるでしょう。

碑の裏側に刻まれた歌

何日行くか

何日散るか

今日のつとめをわれは果たさん

目達原駐屯地で行われる記念行事での展示降下のために当地を訪れていた現職空挺団隊員が、行事の合間を縫って慰霊祭に参加されましたが、その傍ら先輩隊員が、後輩隊員に碑の説明をしているの

を拝見し、伝統の継承を感じました。



八勇士殉職の碑

三 発進飛行場

落下傘部隊が降下のため搭乗し発進した飛行場は宮崎空港と航空自衛隊がある新田原基地です。

宮崎空港は、当時は赤江飛行場と呼称して海軍が使用していましたが、地理的にも近いので、時々陸軍落下傘部隊も発進飛行場として使用していたようです。現在、落下傘部隊の痕跡はありませんが、特攻機発進の飛行場として空港の端に碑が建てられています。

新田原基地の正門は入ってすぐに、基地忠魂碑の横に立派な空挺歌碑が建てられています。基地隊員の手で継続的に清掃が行われ、整備が行き届いていました。この碑を目的に訪れる人は少ないと、基地広報担当者からお聞きしました。

四 護国神社秋季大祭
十一月二十三日は川南護国神社の秋季大祭です。前日から護国神社奉賛会の方



新田原基地内の空挺歌碑



海軍赤江飛行場の慰霊碑

が主体で町の人々も協力、催事の準備をされました。夜には前夜祭が空挺同志会宮崎支部の主催で懇親会が開かれ、地元の方々も、全国から集まった人との交流の場が設けられ約七十名が参加しました。二次会への参加者も多く懇親を深めることができました。

当日は快晴にも恵まれ約百五十人の参加者がありました。

(1) 護国神社設立経緯

陸軍挺進部隊の敷地内に全戦死者をお祀りする「挺進神社」がありました。終戦後の昭和二十一年春に駐留軍により焼き払われてしまいました。その後川南町出身の戦死者を祀る霊堂を建立しようと町民の運動があり、同町出身六百三十四柱と挺進部隊約一万二千名の英霊を合祀することとなりました。昭和二十四年川南霊堂(後の護国神社)が再建され、当初は川南町が主催、空挺同志会が共催で毎年この日に行われることとなりました。今は奉賛会が主催者と変更になってはいますが、社会福祉協議会、赤十字社の方々等、町を挙げての祭事になり変わりました。

(2) 祭典

式次第(主要事項)

国旗掲揚
英霊に対し黙祷

神事

修祓

開扉

献せん

斎主祝詞奏上

豊栄の舞

祭詞奏上

慰霊の詞(県知事)。

玉串奏奠

撤せん

奉賛会長挨拶

川南町長挨拶

祭典での特徴を記述します。



豊栄の舞

国旗掲揚は陸上自衛隊都城駐屯地の隊員が支援しています。

挺進各部隊の活躍を描いた油絵十七点と地元英霊を回想する油絵が境内に展示、分かりやすく説明書きも添えられています。小学校女兒による神樂が奉納されま

す。昔は町を挙げてのお祭りで屋台が出、祭礼の後は境内で各種武道大会が行われ、町の一大イベントとお聞きしました。現在は毎月第四日曜開かれる軽トラ市が町の賑わいとか



護国神社の境内の裏側に空挺落下傘部隊発祥之地と記した碑が建てられており神社境内同様きれいに整備されています。碑の下には歌碑があります。

花負いて

空射ち征かん

雲染めん

屍悔いなく
兵等散るなり

五 その他の遺跡

町の北西方向に国立病院機構宮崎病院があります。その端に挺進三連隊が使用したと伝えられる給水塔が、今もシンボルとして残っています。米軍の機銃跡が残っています。



挺進三連隊使用の給水塔

六 追記

今回は落下傘部隊を主にまとめました。宮崎県護国神社には「ああ特攻」の像も設置され毎年法要が継続されています。

また平和台公園には昭和十五年に建てられた巨大な八紘一字の文字が刻まれた平和の塔が残っています。良く戦後米軍の目をそらせたの感心します。地元の人が字を隠し通したと聞きました。宮崎神宮は護国神社の近くにあり、ここでも

戦績を感じる展示がありました。足を延ばせば鶴戸神宮等、日本のルーツを探る場所が至る所にあり。日本のすばらしさを感じました。



宮崎県特攻勇士の像



平和の塔（八紘一字の塔）

第51回若潮の塔慰霊祭に参列して

理事 鮎田 英一

令和6年11月23日(土)、香川県小豆島の富岡八幡神社において、第51回若潮の塔慰霊祭が斎行された。

富岡八幡神社は、小豆島西側の主要港・土庄(とのしょう)港から東方に約3キロメートルの小高い山頂に鎮座している。応神天皇が小豆島に御遊幸された旧跡に、醍醐天皇10世紀の御代に創建された由緒ある神社である。国道沿いの山裾にある大鳥居をくぐり、石垣で組まれた棧敷を通り、急斜面の長い参道を15分ほど登ると社殿に至る。この日は快晴に恵まれ、社殿神門からは、瀬戸内の穏やかな海と遙かに古戦場・屋島を含む四国の山々を眺めることができた。



参道と石垣の棧敷席



社殿神門からの眺め(右端奥が源平の古戦場・屋島)

「若潮の塔」は、社殿やや手前、参道横の山腹に建立されており、そこで毎年「若潮部隊(陸軍船舶特別幹部候補生隊の通称)」の戦没者慰霊祭が営まれている。

陸軍は昭和18年末、戦局の悪化にとまない「特別幹部候補生」制度を導入し、「航空、船舶、通信、技術等関係部隊の戦力を急速に強化するため」、15歳以上

20歳未満の男子志願兵の募集を開始した。このうち船舶部門においては「陸軍船舶特別幹部候補生隊」が、小豆島土庄町(当時は洲崎村)に設立され、昭和19年春から終戦までに、第1期生から第4期生まで合計約8千名の少年が全国から集められ、小豆島近傍海域で秘密裏に、小型舟艇(四式連絡艇、通称「マルレ」)を用いた特攻作戦のための猛訓練を受けたのであった。

水上特攻部隊は「海上挺進戦隊」と呼ばれ、第1期生はフィリピン、沖縄、台湾方面の戦線に出陣し、その多くが敵艦船への肉薄攻撃で散華した。第2、第3期生は本土の要地に分散配備され、第4期生は小豆島での教育完了前に終戦を迎えている。

「若潮の塔」は、「若潮会(海上挺進戦隊や船舶特別幹部候補生)

の関係者による全国組織」が、水上特攻などで戦没した千数百余りの船舶特別幹部候補生の御霊を祀るため、昭和48年11月23日に建立した慰霊顕彰塔である。

以後、毎年11月23日に全国各地から当時の隊員・戦没者遺族・隊員家族らが参列して慰霊祭が営まれてきた。平成16年からは、関係者の高齢化により、慰霊祭は富岡八幡神社と地元協力者で作る若潮会

若潮の塔
(左側は「陸軍船舶特幹生」の像)



奉賛会によって受け継がれ今日に至っている。

この日は、若潮の塔奉賛会会員、若潮会の御遺族関係者、来賓等約30名が参列し、11時から慰霊祭は始まった。女性宮司・高尾美紀様により、慰霊祭神事は、修祓の儀から降神の儀、献饌の儀、祝詞奏上、参列者による玉串奉奠、撤饌の儀、最後の昇神の儀に至るまで厳粛に斎行された。

を続けていることへの御礼が述べられ、富岡八幡神社の氏子役員が中心となつて、これからも御英霊をお守りし、お世話を続けていきたいとの尊いお気持ち披露された。

慰霊祭後、社務所で直会が開かれ、何組かの御遺族とお話しする機会を得た。東京から来たある御遺族は、大正15年生れで59歳にして亡くなった御尊父の遺品を最近整理していたところ、御尊父が陸軍に在籍し若潮部隊にいたと今になって初めて知り、その足跡を少しでも追いたいとお気持ちから、今回初めて御夫妻で参列したと話されていた。

叔父上が海上挺進戦隊に所属していたという広島から来た御遺族からは、令和6年春から国立広島原爆死没者追悼平和祈念館において、小豆島で教育を受け広島島の暁部隊に配備されていた特攻少年兵たちが、原爆投下直後、広島市の救護活動に派遣された被爆体験に関する企画展「暁部隊 劫火へ向かえり 特攻少年兵たちのヒロシマ」が開かれているとお話をうかがった。また、企画展には「マール」のレプリカが展示されているが、企画展終了後にレプリカの展示場所を、企画展に携わった関係者として模索中であるとの事であった。

境内にある洲崎護国神社
(陸軍船舶特別候補生の英霊1407柱が合祀されている)



関係者の参加が減少傾向にあるとはいえ、このように特攻の史実を深く知りたい、伝えたいという気持ちを持つ方々が決して少なくないことから、当会としても、地元の人々が熱心に続ける各地の慰霊祭に参列し、その模様を広く伝える努力を怠ってはならないと思うところ大であった。

多田野語録
 生き方のヒント
 株式会社タダノ最高顧問 多田野 弘

私の100年余の生涯を振り返ると、生き方のヒントにつながった出来事が3度ある。

第一は、私が小学校卒業の時、父から与えられた提案であった。卒業後、大阪の職工学校へ行くよう勧められた。その頃、父は私にとつて慈父というよりは、師といった怖い存在だった。いつも黙々と、私に「せよ、するな」と、いう指示的な言葉をかけられたことがなかった。終始、温かく見守ってくれているのを感じていた。私を頭に四男二女の養育のため、懸命に働く姿には威厳があった。

私は職工学校という名が気になって返事を渋った。しかし、競争率が8倍で府立の有名校と聞き、父の大きな期待を感じて、入学を決めた。それが、私の機械技術者としての生涯をつくるきっかけとなった。

第二は、戦場での体験である。それは、私の徴兵適齢期の前年に、海軍に制定された航空機整備兵の、徴兵義務が1年で済む好条件に惹かれて応募したことに始まる。入隊後間もなく日米開戦になったが、1年間は基礎訓練部隊で鍛えられ、3年間を南方の戦場で戦いに従事した。

戦場に向かう途中、占領直後のウエーキ島で見た、捕虜が運転する米国製の土木建設機械が、私が後に生涯の仕事とする油圧クレーンのヒントになった。ウエーキ島で見たそれらの機械が、すべて油圧で動いているのが分かった。職工学校で学んだ基礎があり、既に日本の航空機の油圧機構を知っていたからだ。

南の戦場での3年間、毎日空襲があり、生死を分ける凄まじい日が続いたが、詳細は先月の語録にも述べた。3年間よくぞ生き抜いてきたものだが、それは自力でなく、大いなるものに生かされていたのである。生きていくだけで有難いと思えるようになった。その恩に、報いるべきだと心に命じたのは当然である。その思いが高じて、油圧クレーン開発のヒントが熟成されたと言える。

第三は、戦争が終結し、私は父と弟の3人で、焼け跡に建てた24坪のバラック建てで小規模の機械修理工場を始めたことである。国内の復興の機運と相まって、朝鮮事変勃発の軍需景気もあり、仕事は増えていった。そうするうちに、開戦当初に見たウエーキ島のことが思い出された。「ダメもと」でもいい、油圧を利用した荷役機械をつくってみようと考えた。これがなんと、80年後の我が社の誕生起源になった。

未熟な知識と技術で、簡単な構造の試作機をつくり上げた。無様な格好だが、2トンの重量物の揚げ降ろしが可能なことが確認できた。それはなんと、日本の油圧クレーン歴史の嚆矢だった。日本中で唯一、油圧を利用してクレーンをつくらうと考えたのが私だった。

試作機を発表以来、予想しなかったほど注文が舞い込んできた。それに応えるべく、急速工場規模を拡張し、人員も機械も増やしたが、生産は計画通り進まなかったどころか、混乱が続くのみだった。その原因が分からず、眠れない夜が続いたが、それは当然であった。未熟な25歳の若者が企業経営の何たるかも知らず、海軍で身に着けたリーダーシップだけで経営していたのである。

模索を続けるなか、企業経営の書P・Fドラッカー著「現代の経営」をみつけた。私は飛びつき貪り読んだ。まさに、千天の慈雨とはこのことだろう。自分の愚かさを知ると同時に、一字一字がドスンと腹に入っていく。企業経営の目的は、「社会的価値を創造することによって、社会に貢献することにある。利益は、その貢献度に相応して社会から与えられる」とあった。

もし、利益追求を目的に経営するならば、その企業に関わる顧客はもとより、

従業員も取引先も、企業の利益追求目的の手段にされてしまう。そのような企業に発展はあり得ない。私はドラッカーの透徹した経営哲学に惚れ込んでしまった。私の人生観と一致している。勇躍、具体的な経営制度の改革に着手した。この改革案で会社が潰れても惜しくないとさえ思った。

まず、出勤簿とタイムレコーダーの廃止である。続いて、工場従業員の日給制を月給制にした。驚くことに、それらが社員の自主、自律的意識を促し、創造的となり、生産が一挙に進むようになった。人は監督してはならないし、監督されてはならないのである。現在、この社風は、我が社の誇れる文化となっている。製品の65%を輸出する世界的企業に発展し、輸出先のトップが米国になっている。私は独立自尊の考えで、疑問を直視し、あえて厳しい課題と真剣に取り組んできた。振り返ると、一つ一つの出来事を人生のヒントとすることで成長できた。先日、私は運のいい人間だと述べたが、生き方のヒントを次々に与えられた、世界一の幸せ者だと思う。なお創造的な生き方を続けて、成果が産まれることを望んでいる。

ルソン島マバラカット慰霊祭に参加して

小倉 和彦

80年前の昭和19年10月25日午前7時25分、マバラカット西飛行場から出撃した関行男海軍大尉率いる敷島隊の爆装零戦5機が、レイテ東方沖の米空母「セントロー」等を撃沈大破した戦史を、神風特別攻撃隊の嚆矢としてご存じの方もおられるかと思えます。

令和6年10月25日、(公財)特攻隊戦没者慰霊顕彰会(以下、特攻隊顕彰会)及びマバラカット西飛行場を含むクラーク飛行場を管理しているCIAAC (Clark International Airport Corporation)との共催による慰霊祭が斎行されましたので、その慰霊式典参加の為、特攻隊顕彰会とフィリピン政府観光省が後援する鎮魂の旅に、元統合幕僚長の岩崎特攻隊顕彰会理事長や軍事ジャーナリスト井上和彦氏など、日本各地から参集した総勢約30名の同志達と5日間に亘りご一緒させて頂きました。

折悪しく台風20号が来襲し悪天候の中でしたが、出撃日時に合わせた慰霊式典当日は現地スタッフによる天幕設営などもあり、130名を越える参列者は大雨に悩まされる事も無くご英霊に対して謹

んで哀悼の誠を捧げ、慰霊献花を差し上げたところでした。

フィリピン空軍音楽隊による日比両国歌演奏後、世田谷山観音寺太田住職の読経に続き岩崎理事長の祭文奏上、そして地元名士のウエルカムスピーチと、厳かにそして肅々と慰霊式典は進行し、終了間際には涙雨も殆ど上がりご英霊のご加護かとも感じました。

日本ではさして大きな話題にも上らない80年前の戦史がフィリピン国民の琴線に触れて荒天を厭わず、しかも早朝より多くの参加者を得て開催された事実が驚きを禁じ得ず、日本人とすれば本当に有り難く、同国民に対し感謝の気持ちで溢れんばかりです。

その後東飛行場跡に移動し、関行男海軍大尉をイメージした特攻慰霊碑に黙祷献酒したところ、何とその銅像モデルは元自衛官で今は亡き俳優の今井雅之さんとの事で、現在は公園として整備されていました。現在は公園として整備されたらず綺麗に管理されている事が誠に印象的でした。

翌日見学したアンヘレス市の「ダニエル・デイソン・ミュージアム」では、ご自宅一隅に特攻関連の品々が処狭しと展示されており、靖國神社にも無いと思わ

れる敷島隊員5人の精緻な肖像画等は、故ダニエル・ディソン氏が自ら鉛筆で描かれたとご子息から伺い、故人の特攻隊員に対する深い愛情とその巧みな筆捌きに大いに感激した次第です。

また元市庁舎だった「アンヘレス歴史博物館」には、敷島隊4番機の永峰肇海軍飛行兵曹長の「南海にたとえこの身は果つるともいくとせ後の春を想えば」の辞世の句碑が展示され、異境の地で郷土宮崎の大先輩の警戒に接して正に感無量でしたが、同様の句碑は宮崎県護国神社境内や宮崎空港西側の宮崎特攻基地慰霊碑脇にも建立されています。

今回私は参拝が叶いませんでしたが、ロス・バニョスの山下奉文大将や本間雅晴中将等の日本陸軍軍人慰霊碑や、家内と参列した日本海軍特攻隊慰霊顕彰式典の中で、同国民の日本軍人に対する尊崇の念は一体どこから生起するのか実に不思議に感じたところです。

と云いますのも私が今まで仄聞した同国の対日感情は決して良くないと云うもので、そのギャップに驚かされ一体どちらが同国民の真情なのか、数百年間スペインやアメリカの植民地として抑圧され続けた80年前の民草は、日本軍を解放軍として歓迎したのだろうかと思問自答を

続けましたが、私の情報や知識不足で未だ結論は出ていません。

10年前訪台した折、高雄市の「保安堂」や台南市の「飛虎將軍廟」、或いは屏東県の「東龍宮」や台中市の「宝覺寺」など台湾各地の旧日本陸海軍慰霊碑や宗教施設等を参拝しましたが、台湾人の対日感情は頗る良好で旧日本軍人をご祭神として慰霊顕彰している廟は日本国内でも東郷・乃木両神社以外は余り知らず、同じ日本人として実に誇らしい反面、何だか恥ずかしいような不思議な気分にも襲われました。

10年前に台湾で感じたこの不思議な感情は、今回フィリピンで感じたものと強弱の差は有っても恐らく通底するものであり、我々日本人が戦後80年掛けて忘れ去ろうとしてきた「大切なもの」の様な気がしてなりません。

人の命は確かに「大切なもの」ではあるけれども、世の中にはその大切な命を擲つてでも守るべき「もっと大切なもの」がある事を、台湾やフィリピンの人達は知っているからこそ、それをやり遂げた日本軍人を崇敬して慰霊顕彰を80年間も続けてこられ、その歴史を突きつけられた私は、日本人として誇らしくも恥ずかしいと感じたのでしょうか？

宇露戦争の北朝鮮参戦や韓国の非常戒厳発令、更にはシリアを含む不安定な中東情勢等、大東亜戦争終結80年目を迎える令和7年の世界は益々混乱の度を深めそうな様相ですが、後に続くを信じて叡智と勇気を振り絞り、数多の困難に雄々しく立ち向かった先人に肖り、護国のご英霊に対し感謝の誠を捧げ本レポートの結びと致します。

令和6年12月12日

陸上自衛隊高等工科学校 全国生徒育成
会連合会 会長 小倉 和彦



特攻隊員へのインタビュー

会 員 中川 法宏

沖繩海上特攻4・7 冬月
加藤博一等兵曹の戦記

(大正14年〜平成29年)

海軍主計

当時としては軍国主義一色だったんですけど、個人的な理由として親から離れたかったんです。というのは私の二歳半離れた兄はどえらい秀才で、常にそれと比較されていたんですね。群馬の渋川で



生まれ育ったんですが、同級生は高等小学校から中島飛行機とか、軍事工場へ就職していく。私の場合、どこに行くとも聞かれない。働かなくても食ってはいける家庭でした。おふくろが強い家庭だったこともあり、出ていきたくったんですよ。その時、旧制中学の16歳。昭和16年の5月に海軍に入りました。実はその一年前、無断で志願したんですが、親が役場に行つて取り消したんです。

大東亜戦争は土浦航空隊で迎えたんです。ニイタカヤマノボレにちなんでか軍装して行軍した覚えはあります。山は上ったか覚えていません。シナ事変の最中でしたが、戦争をしているという意識は今考えると薄かったですね。

17年、大井航空隊に転勤になりました。ただ航空隊はできていませんでしたが、間もなくできるというので5人ぐらいの仲間と行きました。新兵から一つ上がったぐらいですから、まだ飯炊きをやつ

てました。志願兵は被服受信、庶務経理と別れるんですが、私は試験は受かりましたが身体検査で慢性気管支炎で不合格です。それで大井航空隊に転勤。そこで身体検査を受けたら視力不足で武山海兵団へ転勤になり、そこで一年半、新兵の教育をしていました。新兵を4期送り出しました。新兵の前でかっこいい兵長でいたんですが、海軍に来たからには軍艦に乗りたいて気持ちはあつてね。やられた話は来るとき、来ないときありますね。沈んで助かった人が横須賀あたりに来るんですが、機密情報で外出禁止になつていても、しばらくすると別の船に乗せるんです。その間にいろんな話をするからね。

こんど霜月つてのができるからそれに乗るように待っていたら、私より半年早く入った兵長がそれに乗ることになり、次の船がすぐできるからそれにいけてつてことで上司が手続きしてくれまして、19年の4月に舞鶴に艀装員付で転勤になりました。このとき、海軍に入つて3年目です。

駆逐艦 冬月

感激というか、海軍に入った甲斐があつたと、そんなところですね。今思えばなぜ駆逐艦を志望したのかわかりません。

教育を4期していましたが、こんなに長く教育をしていたのはおりません。私の場合、学科で合格しても、身体検査で2回不合格ですから、上の者もかわいそうだと思つたんでしよう。駆逐艦志望した時、よく面倒を見てもらいました。

輸送作戦で陸軍を乗せたり、何回かやりましたが、敵と撃ち合うことがありませんでしたが。私の仕事自体、糧食の管理ですからね。何をどれだけ出してきつて言われると、それを出して、帳簿を付ける。そんな仕事です。艦の中にでかい冷蔵庫があつて、肉や魚はそこに、野菜なんかは玉ねぎとかジャガイモとか保存のきくものを積んでいく。一か月ぐらいはもちますよ。

19年10月12日、雷撃を食らいました。同年兵が3人いて、11月が進級の期限です。分厚い海軍広報を主計課から持つてきて内緒で3人で見ました。他の2人は名前がありました。僕の名前もありません。あれはないかとタカをくくつていました。が、あつたんです。進級できました。みんな「よかつたなあ」といつていたら、魚雷をよけきれなくて艦の先っぽがもがれてしまいました。この時横須賀の軍事部からコメをいっぱい積んで天井まであ

りましたが、その壁の向こう側にいたんです。そうしたらそのコメが土囊の代わりになりせき止めました。同年兵つてのは一緒に仕事をすることが無くても同年兵つてだけで親近感がわきます。主計課の同級生は300人います。67分隊と68分隊で150人づつです。主計課3人は助かりましたが、甲板に出てみたら火がでてました。ここで死ぬより、11月になつたら二等兵曹になるんだからつて思いがでましたね。その時の同年兵にきいたら、同じことを思つたそうです。4月7日の出撃前、ドックに入ったんです。この時、一緒に入った船が朝霜なんです。朝霜の隣につけたので板を渡して渡れるんです。朝霜には大井航空隊にいた時、一緒にいた同年兵がいるんです。僕は下士官、彼はまだ兵長でした。久々に会いましたが彼は進級が半年遅れたようです。その後、朝霜は全員戦死しました。

沖繩海上特攻4・7 冬月

沖繩に行くときの訓示がありました。艦長から話がありました。今思い出せないので。遺品として何かしら陸に上げましたが、死に行くつて感じはなかつた。ただ、行くとき、豊後水道を出て、四国、九州が遠くに消えていくとき、ちよつ

とセンチな気持ちにはなりませんでしたね。普段は主計の仕事ですが、戦闘が始まると甲板左舷艦橋下にある単装機銃へ弾込めをしていました。私は第一波の攻撃を受けた時、私が担当していた機銃の射手の上等兵が弾を受けて戦死しちゃったんです。機銃が空いちやつてブローンとしてる。そうしたら艦橋から板(バン)つて先任将校が「加藤！お前が撃て！」言うんです。撃つたことないですから。でも第7派の攻撃まで撃ち続けましたよ。曳光弾が入つてますから弾が飛んでいくのがわかるんです。敵の飛行機も艦スレに突っ込んで来てかわしていく。なにせ相手の顔がわかるんです。弾を撃つと飛行機に当たっているけど煙一つ噴かないんです。

暗雲が立ち込めているだけです。最初はバラバラつて機銃の音はするんです。その時は鉄兜をしました。そうしたら敵の機銃の破片が何かで右目の上をやられて血が出たんです。何かの格言でも血を見た後は怖くないつてのがあつたと思いません。やられて血を見たら、怖いと思わなくなりました。敵の飛行機も次から次へと突っ込んでくる。その飛行機の顔が見えるんですけど、大和魂も奴らのヤン

キー魂もわかる気がするんです。国を守るために命を投げ出して向かっていくわけですから。私のすぐ近くにロケット弾が命中しましたが、幸い不発でした。このロケット弾は部屋を二つ突き破り配電盤つて船の中枢まで行き、その葉きようが同郷の原一等兵曹の首をもいで、首のない戦死者になりました。

水柱の中、矢矧がいるのは見ました。大和が沈むのは最初から最後まで見ました。1500メートルぐらい寄つてたんですよ。その時は総員上甲板がかつてたんですね。左舷に傾くと甲板からバラバラと海に落ちるんです。そして一回、船の傾きが復元したんです。船は走つてますから落ちた人は置いてっちゃつてるんです。そしてズーと赤っ腹、ようするにバルジを見せて、とたんに爆発です。地球が吹っ飛んだんじゃないかってぐらいの爆発でしたよ。その様子を双眼鏡で見ながら「大和沈みます！」その声を出したんですよ。涙がボロボロ落ちましたね。

霞（直撃弾により航行不能）の乗員は並んで乗せてですから、海に落ちたもの以外は全部助け、その後、うちの魚雷で沈めたんです。漂流しているものはカッターで引き上げます。少将を救出したん

ですがみんな真つ黒ですし、毛布から服から、あるものは全部出してね。あの時はすさまじかったですよ。

この作戦の目的は敗戦濃厚のため、大和を沈めるための作戦ですからね。なぜ一億特攻の先駆けとなれて言われたのか。少尉候補生なんか直前に降ろしてるでしょう。3月に兵学校を卒業して大和に乗りこんできても、配置がないし、訓練もしていないから、戦争始まつたらかえって邪魔でしょう。

艦長と話したとき、4回駄目だと思つたそうです。魚雷が船の真下をすり抜けていったそうです。艦橋から見えていまして。魚雷がもう少し浅い位置で来たら当たっていた。私は飛行機にばかり目がいっていたので魚雷が来たことはわかりません。主計で機銃を撃つたのは恐らく私ぐらいなものでしょう。

帰りは潜水艦がウヨウヨしていましたが、恐怖心はなかったですね。行くときはどうにでもなれつてもんでしたけど。

防空警備

沖繩から帰ってきて佐世保に帰りました。他の船はわかかってるんだけど、涼月がわからないからずいぶん探しました。41駆逐隊として一緒にやってきましたからね。涼月はやられちゃって前に進めな

くて、バック後進で帰ってきました。この時、涼月に乗っていた16歳の新兵さん、弾庫で弾あげしてるわけですよ。弾庫つて船の一番底にあつて、浸水してくるか、ハッチを閉めてしまふ。この新兵さんは壁に遺書をかいて腹を切つて自決したそうです。これはドッグに入って排水した後、見つかったそうです。その話を聞いたときは涙が出ました。

そうしたらB29がきたので高角砲で迎撃したら、五島列島のほうに落ちたと連絡がありました。その後、門司、関門海峡の警備です。今日はこの島影、明日はこの島影つて場所を変える。あつちは弾の届く船がいるつてわかると、来ないですから場所を変えて待ち伏せするんです。一機、直撃したのか火だるまで落ちてくる飛行機があつて、体当たりしてくるかと思いましたが海に落ちました。日本人の感覚ならやられても、相手を破壊してやろうと思うところですが、彼らはそうではなかった。翌日、座礁した商船に5人ぐらいつかまつていて、捕えられ、刑務所に送られたそうです。

8月15日の知らせは門司の岸壁で玉音を聞きました。心境は悔しかったな。この時2等兵長で、9月1日付で1等兵曹の判が押されました。8月17日に横須賀

の海兵団に転勤になりました。戦争終わつたのに転勤なんて意味ないけど、命令だからしかたないですよ。須藤って僕より半年早く入った下士官が赤痢で死んじゃったもんで、そいつの遺骨を持って横須賀に転勤しました。行くまで結構時間かかったね。電車なんか動いて無いもんだから。冬月会ってやってますが、同じ釜の飯を食った仲間ですから結束が違いますね。この前、46回目の慰霊祭をやりました。(平成22年4月7日)今の日本に軍隊がないって、自衛隊だけでやっていけるのか。戦争のやり方もありますが、北方領土も帰ってませんからね。

海軍生活4年半ですが、人生無駄にしたとは思っていません。霜月に乗れなかったのも運、沖繩で死ななかったのも運。戦後も何とか学校にも行けたし、今食うことにも困ってませんからね。

インタビュー日時

平成22年4月17日

駆逐艦冬月会は現在も4月7日頃、靖国神社で慰霊祭を行っています。興味ある方は靖国神社社務所にお問い合わせください。

加藤博一等兵曹



回天特別攻撃隊多門隊
坂本雅俊一飛曹



イ53潜水艦乗り組み多門隊
前列左から川尻勉二飛曹、勝山淳中尉、
荒川正弘一飛曹
後列左から坂本雅俊一飛曹、関豊興少尉、
高橋博一飛曹

す。

回天の操縦そのものはそんな難しくありません。潜望鏡も手動で上げるし深度計も速度も手動で調節します。もとは93式魚雷で当時、世界で一番の魚雷です。その魚雷の神様が高橋少佐で我々の整備長で大津島におられました。親父からの手紙でその方が近くの村の出身と言うこ



人間魚雷回天
大神回天基地跡にある実物大レプリカ

とが分かったので私は出撃するまで高島少佐の所へ夜いつも行っている教えでもらったり、励ましてもらったり、ウイスキーなんかよばれたりしました。

特眼鏡は波が穏やかなときは見えるんですが波があると回天そのものも揺れまじないといけませんから速度も1ノット、2ノットに落とします。速度を落とさないままなら敵に発見されません。敵に気づかれないように観測して敵の速度や航行の角度などを判断し、こちらも深度をとり舵をとり速度をあげます。この時間が15秒から30秒です。この時、あんまり速度を上げすぎるとイルカ運動といって急こう配で深く入りすぎて上下に振られるんです。訓練の時でもイルカ運動はやかましく言われましたな。太平洋では海底に突き刺さるということは無いんですが訓練は徳山湾ですからな。ここは海底12〜15メートルしかありませんからイルカ運動で海底に突き刺さって殉職したのが何人もおります。訓練中は蛍光塗料をつけて、さらに目立つように気泡が出るようにして、遭難しないよう飛行機や魚雷艇で追跡するんです。私は海底に突っ込んだとか突っ込みかけたとかなく意外に無難に訓練で来ました。訓練して帰って

きた晩に研究会と言って自分がこの時何度の角度を取って何ノットで先行してとか、その日回天の訓練を受けた者が練習生も含めて一人一人発表するんです。そいつが一番きつかったというか、ズラツと並んで一人づつ搭乗員が発表しますから組板の鯉です。この発表で搭乗員の腕、度胸なんか試されるのでいつ出撃するのかわかかってきますわな。

イ53潜水艦搭乗

私は20年の7月に撃つていますが、それまでは同期の仲間を見送ってきています。これが最後、人間としての最後というか神さんみたいな感じになっていすね。「成功してくれ」と言う気持ち、神様との別れみたいな感じですかね。

撃前、一度家に帰りました。回天の訓練生はなかなか休暇らしい休暇をとれなかつたですから軍の配慮だったんでしょう。実家に帰って大津島に戻る時、親父が京都までついてきてくれました。汽車の中で何か話すわけでもないんですが、おそろくわかつていたんだらうと思えます。別れるとき、また帰るからとは言えませんが「元気で」と声をかけることしかできませんでした。

撃命令は朝の朝礼というのか、それに行つて司令から直接名前を発表されて

みんなの前に出て行きました。その時の心境というのは「いよいよ来るべき時が来たな」というのと、「ドキッ!と心臓を突き刺されたような感じと両方ですな。死刑の宣告を受けたようなものですから。結果、故障で帰ってきましたけど、

出撃したらこの世の終わりです。我々の先輩たちも故障で出撃できなかった者もおりますけど帰ってくることも自体が、見送ってもらって出ていったのに故障とはいえ帰ってくるんですから不名誉というか自決したい気持ちです。たまたま私の場合は帰って来てすぐに終戦の知らせが来ましたが、そうでなければ生きてる気持ちがありませんよ。私たちは捷号作戦で出撃ということでしたが詳しい海域やらは言いません。潜水艦からの出撃訓練などはなく、実戦がぶっつけ本番でした。潜水艦はイ53ですが触雷してドッグで修理していましたから、出撃命令を受けてからイ53に乗り込むまでは結構時間がありました。この修理でどうやら水中聴音機の修理がうまくいかなかったようです。したがってその後の断末魔の爆雷攻撃を受けることになります。

特攻隊として出撃を待つ間、特攻隊員だけで宿舎が与えられてそこから訓練に出てました。この宿舎はほかの隊員から

すると神の家と表現してくれてました。この近くにミカン畑があったり近くの農家に行つて風呂に入れてもらったりしました。島の人は我々が特攻隊員だとわかつてたんでしよう。純朴な方たちだと思いますよ。

20年7月14日に大津島を出ましたが、その前に徳山の料亭で壮行会がありました。特攻兵器で出撃するんだから海軍軍令部として最後の慰安というか武士の情けだったんでしよう。特攻隊員だけの壮行会で料亭側もサービスしてくれました。特攻で死ぬんだからということでしょう。

出撃前、板倉司令から守り刀の短刀をいただきました。回天には自爆装置が付いているので失敗しても短刀ではなく座席後ろのレバーを押して自爆します。

大津島をイ53で出ていくときの心境は無量な感じで乗り込んでみんなに送ってもらつてこちらも敬礼を返します。

「よし、やるぞ!」と言う気持ちと「これで人生の最後か」という気持ちです。でもひと思いに行くのだから「やるぞ!」と、二つの気持ちが交錯したような頭の中になりました。

艦内では会敵するまでは任務ちゅうものはないわけですから、あちこち機関室

だとか聴音室だとか周って潜水艦員と郷里の話したりそんな交流をしてました。時たま、艦長から呼ばれて「見てみるよ」と潜望鏡をみせてもらったり電探も持つてましたから電探でどうやって敵を発見するのかと聞かせてもらったり、あとは

将棋なんかしてました。敵にぶつかるまでは乗せてもらつてゐるわけです。お世話になつてゐるわけですから人生最後の時間を楽しむというか任務を達成するには緊張ばかりではいかん。一カ月潜水艦生活しましたけどみんな家族以上の家族やなと私は思うんです。

イ53潜水艦多門隊隊長

勝山淳中尉(海軍兵学校73期)

関豊興少尉(予備学生)

川尻 勉一飛曹(予科練13期)

荒川正弘一飛曹(予科練13期)

高橋博一一飛曹(予科練13期)

坂本雅俊一飛曹(予科練13期)

回天戦用意!

敵艦発見で回天に乗り込むときの心境ですが14日に大津島を出て24日まで艦長や勝山隊長の配慮もあったんやけど訓練で回天戦用意ということで回天に乗ったことが一度ありますけど、本当に回天戦用意がかかったのは7月24日の勝山隊長の時「回天搭乗員乗艇!」と艦長から

声がかかって「よし来た！」みんな握りして「みんなやろうぜ！」そう言っ
て搭乗服を着て、一番大事なのは時計で
すから時計の確認です。この時血が騒ぐ
というか興奮して血圧が上がり、無
我夢中で準備して潜水艦から梯子で
天まで登るんですが結構長いんです。
私は後部の魚雷発射室の隣で寝泊まり
していました。後部には回天が4基、前
2基です。その時の潜水艦員の見
送ってくれるまなざしが「頼むぞ！」
という感じで今でも目に焼き付いて
います。

回天に乗り込んで出撃命令を待つ間、
いよいよこれで最後だと。故郷の山や川、
母親の顔が浮かんできました。この時
は勝山隊長だけが出撃しました。隊長
が行ってなぜ我々は行かせてもらえな
かったのかなと思いましたが理由を後
で聞きました。敵を後方から追いかける
形で隊長は出て行きましたから距離が
届かない可能性があるのと、回天を何
基も出すと回天同士で交錯して衝突し
てしまう。艦長としては一基一基、時
間をおいて発進させる作戦だったわけ
ですな。

勝山隊長は兵学校(73期)出身で年
齢的にも我々の3歳ぐらい先輩でした。
階級的にはその時中尉でした。私た
ちは下士官ですから差がありました。回

天についても早くから乗艇して訓練
受けておったですから隊内では尊敬
されておりました。勝山さんは私ら
の気持ちを考えたか階級意識だとか
先輩面するわけではなく、気さくに
我々の気持ちを汲んでくれた。思い
やりのある兄貴の様な方でした。隊
長が呉にいらるとき挺身隊の女学
生からマスコットをもらったと見
せてもらいました。予科練に入隊す
る時、家族からもらった千葉成田山
の身代わりお守りぐらいです。隊長
が模範を示してくれたなど、2回
目からは隊長に続けと言つて気分が
非常に楽になりました。7月29日の
2回目の回天戦用意の時は隊長に後
ろから押されるような気持ちで乗艇
しました。イ53潜水艦は水中聴音機
の調子が悪かったので敵の輸送船団
が来ても気が付くのが遅く、気が
付いたときには輸送船団の真ん中
にありました。こうなるとこちらも攻
撃できません。そういう状況の中、回
天が追撃できる距離が取れたので艦
長の判断で川尻君一基だけが出て行
ったわけです。回天に乗艇していると
回天同士のやり取りは出来ませ
んが艦長と電話で話は出来ずから誰
とどんな話をしているか見当は付き
ません。川尻君は確か3号艇でした。
勝山隊長が

1号艇でその両サイドが2号艇、3号艇
ですから順番で行くと2号艇荒川君か
3号艇の川尻君です。2号艇を出すか
3号艇を出すかは艦長の判断です。な
らぬ。

深夜の出撃命令

8月4日未明、爆雷攻撃を受けたとき
は月明りもない深夜で大場艦長の判断
で回天を発進させても絶対成功しないと
思ったようです。月明りでもあれば、う
つすらと敵の艦影が見えるようになるから、
その時間になるのを爆雷攻撃を受けなが
ら待つておられた。そう私は思います。
その時間、私は寝てましたよ。爆雷攻
撃で起こされたんです。クーラーはあり
ますけど暑いから禪一つで寝てますから
裸です。最初の爆雷攻撃はびっくりしま
した。爆雷を受けたのは初めてでした
から。爆雷攻撃を受けて電気は切れて
しまうし物は落ちて来るし上からだけ
ではなく下からも突き上げられるし横
から来るし、すごい音。今でもその時
の恐怖は言語に絶します。

この時、我々みんな回天を出してくれ
という気でしたが予備学生の関少尉が説
得していただきました。勝山隊長の後、関
さんが責任を感じ取ったんだと思いま
す。「このまま潜水艦ごとやられるのは
何回天で死なせてくれ！夜中だろうが何

があるうが回天で突っ込ませてくれ！」そう言ったのは関さんですわ。私らの気持ちも一緒です。潜水艦で死ぬより早く出してくれです。全くの断末魔。助かる気もなかった。この中で長い時間爆雷攻撃を続けてくるから一発や二発でも怖いのに何発も来るでしょう。この時隊員で数えてた人がいるそうですが100発は下らんかったそうです。生きてる気がしませんから私らも一刻も早く出たい。回天に乗り込むまでも爆雷受けています。回天には整備兵が付いてますから整備兵が先に回天に乗って点検をするんです。降りてきて異常なしとか、漏水ありとか報告するんですがこの時はそんな余裕もないです。速く回天に乗って「どうせ死ぬなら回天で」その気持ち先走ってくるし先ほど関さんの言った言葉にみんな同調してます。艦長も回天発進のタイミングを計っているけど敵艦4隻が対角線上に爆雷攻撃してくるから潜望鏡も上げられません。艦長や砲術長や艦の偉いさんも最後を覚悟しとったようで防水なんか終始しとった。

4人乗艇して私の隣は関さんでしたな。その時の出撃は無我夢中で特眼鏡で合図する余裕も無かったですな。潜水艦も浸水して傾いてきたんですね。私の回天は

酸素パイプに亀裂が入って艇内に酸素が噴出してました。そんな状態ですから「早く出してくれ！」と艦長に嘆願したのを覚えています。艦長からは電話で「しばらく待て！」です。酸素魚雷の酸素ですから足りなくなると回天が発進できませんし、この時、艇内の気圧が上がって目が飛び出すようになってきます。私の生きてるうちに目的を達成せにやならんですから郷里の姿も母親の顔を思うとかも、その時は無かったですね。興奮と気圧が上がってくるのとでいつの間にか意識がなくなりました。気が付くと回天から出されて寝かされていましたが、どうやって回天から降ろしてくれたのか全然わからん。意識のない私を梯子でどうやって担ぎ出してくれたのか。私が意識を取り戻した時、爆雷攻撃はなかった。潜水艦も助かったんです。それともう一人高橋君が横に寝てました。彼は中毒を起こしてしまいましたな。「彼も出られなかったかなあ」と思いましたが、彼も意識なかったです。慙愧に堪えませんが潜水艦もよく助かったもんやなあと思います。そのこと自体が不思議でいまでもなぜ生き残ったんだろうと思います。

終戦 生き残る

何と言って司令や整備長に顔を合わせ

るのか。それが苦痛でした。終戦の前でしたからな。帰投する電報に今度は修理ののち、津軽海峡に転戦と指令を受けて帰ったわけです。故障した回天を下ろして呉でイ53の修理が完了したのち新しい回天を乗せて北方へ転戦するという命令を受け取ったんです。だから大津島には回天だけ下ろして私はそのまま潜水艦に乗って呉に行きました。そこで高橋君は病院に行きましたかな。海軍病院に行つたと思います。ドッグに入って修理ですが、その間にも空襲警報が出たのでドッグから出して沖に避難することもありました。

終戦の知らせは呉で聞きました。潜水艦の甲板です。全員ではなかったと思いますが出られるものは甲板に集まってラジオ放送を聞いたんです。そうしたら「重大放送がある」といわれまして「終わったか」と。その時の心境はホツとしたというか落胆というか不甲斐ないというかそんな気持ちがありましたな。だからといって自決しようとは思わなかったですな。いっぺん生き残ったんやから郷里に帰ってから北海道に行こう思ってた。郷里の兄は私より先に死にました。が弟がいるから私が居なくなっても弟が何とかするだろう。北海道は高橋君や川

尻君や北海道出身の者が周りにおりましたから北海道に行って電気屋でもしようかと思っていました。ラジオやなんか組み立てるのが好きでしたから。

一度、郷里に帰ろうにも表通りは歩けやんなあと裏道歩いて帰ってきました。私の所は配給所を叔父と伯母が頑張ってくれて米穀通帳でいろいろしてました。あと、放出品の砂糖やチーズや米軍の配給のイモやらの管理をしていました。これを年寄りがやっとなるのを見ました。自分で自分の好きなことで北海道に行くなんてできないかと、手伝っているうちに責任持たされて報告書やら厳しいんで食料事務所や県の監査もあるし北海道行きも確約したものではありませんので友達には理由を話して米屋を継ぐに至ったわけです。

戦死した荒川君は同じ予科練の13期生です。今思っても家族思いな方でした。川尻君は私より一つ若かったですが快活な人懐こい人です。彼は遺書を丁寧に親戚や近所の方にまで書いていまして、私も後で見せてもらってびっくりしました。関さんは年齢も上ですし階級も上でしたし娑婆を経験して東京の大学に行っていましたから、戦況も私らより知つたられたし大本営発表の不可解さもわかってい

たようで批判もされていましたが回天で死ぬ覚悟はされていたようです。みんな家族以上の仲間です。

あの時代、やはり日本の国難に若者が身を挺してでも身を捨ててでも守らなければいけない。女年寄りにはできないです。若者が逃げてはいけません。防波堤にならなければいけないと、むしろ名誉なことだと思っていました。予科練の同期で自分で回天を選んだわけでもないけれどどうして回天だったのか。ベニヤの特攻ボート、震洋に行つた者もおります。これはさらに訓練期間が短いからこれぞ戦死した者は回天の4倍も5倍もあるな。回天の訓練で殉職した者もおりますけど操作するには震洋と比べて視界が見えなから訓練は厳しかったけど回天に配置されたために結果、生き残つたんだなど。自分の力ではどうにもならない。戦後50年、生き残つたことは誰にも言わなかった。不甲斐ない天命ですから。最近、地元の中学校から戦争の話聞かせてくれとか上野高校のPTAの会長が話をしてくれとかあります。それまでは一切話さなかつたですよ。死んだものと生き残つた者との落差がありすぎて話にくてならんです。

あの時代に生まれた我々としては回天

に参加させてもらい生き残つたわけですから戦争としてははならないし、そういう時代を作つてはいけないとの思いがあります。回天とは私にとって幻の特攻兵器でした。



坂本雅俊一飛曹

インタビュー日時

平成22年6月19日

参考文献

- ・特攻 絶望の海に出撃せよ 新人物文庫
- ・人間魚雷回天 ザメディアジョン

ザメディアジョン

陸軍特別攻撃隊 第 2 1 3 振武隊
板津忠正 大正 14 年生まれ
大空への憧れ

もともと生まれは名古屋の昭和区で
が在所は伊勢なんです。明野の近くね
ご存じのとおり明野って戦闘機のメツカ



特攻おばさんこと、鳥浜トメさんと特攻
隊員 後列左端が板津軍曹。右の 3 人は
報道班

ですから、母親と一緒に在所に行く
と、必ず空中戦の訓練をやったんです。だ
から空ばっかり見てた。3歳4歳ぐらい
のころです。あの当時の若い人はだいた
い空に憧れていたんです。私もできるな
らばって受けてみたんですが、受けた当
時、背が小さかったもんですから、それ
が原因でだめだった。子供のころは前な
らえしたこともなかったぐらいだ。適齡
期になるとそれはいかんよね。

私はもともと、軍人ではなくて民間の
パイロットでした。少年飛行兵や予科練
やらのポスターが町に張られるのを見
ると目が行くんですが、基準に達しないか
ら「あれもダメ、これもダメ」なんです。
当時、通信省に航空機養成所って民間の
パイロットを養成する機関があり、この
募集をみたら、それに基準が達したも
んで受けてみたら幸い受かった。昭和18
年の10月に米子の養成所に入りました。
米子に飛行場ができたのは昭和13年のこ
とですが、当時、民間の養成所は米子と
仙台にしかありませんでした。その後、私
たちが入るころには印旛とか岡山とか都
城とか、いろいろできていました。この
養成所は今の米子飛行場ではなくて自衛
隊が使っているほうになります。あの頃、
米子は満洲への起点になっていましたね。
満洲公路。若い男は兵役の義務があつた

し空の憧れがあり、競争率は激しかった
ですよ。私たちの場合でも競争率は70倍
ぐらいでした。航空兵は免許がないけど、
僕は戦争中だけど、航空士の免許をも
らいました。平時なら、今の全日空とか
日航とかに就職する道が開けていたん
です。戦後、現役の軍人出身より我々予備
役のほうが民間航空に入り易かったんで、
そちらの道に進んだ者も多かったんです
が、私の場合、結婚した年に、その制度
ができたもので諦めました。

少年飛行兵と違うのは、少年飛行兵の
場合、練習用の飛行機に乗るまで、何年
も地上教育を受けなければいけないけど、
航空養成所の場合、私たちの一期先輩ま
では入って一週間経つか経たないうちに、
すぐ飛行訓練です。私たちの時もすぐ
飛行訓練になるかと思っていたら、その
前に学徒動員で入ってきた特別航空見習
い士官に訓練用の飛行機をとられちゃっ
て、練習用のあかとんぼ（93式中間練習
機のこと）だって数に余裕がないもんだ
から、地上でグライダー訓練をやりまし
た。午前か午後かのどちらかですが半年
間そんな訓練をうけました。

八女教育隊

米子で半年間、教育を受けた後、19年
4月初めに大刀洗陸軍飛行学校の八女分
校所に入りました。ここはできたばかり

で建物は新築、飛行場はまだトロッコを使って建設中だったね。ここに行つてすぐ練習機に乗りました。駅から(今のJR羽大塚)歩いていくとき、ちようど朝食時間だったからにぎりめしをほおぼつとつたら近所の人が来て話をあれこれ聞きたがつとるのよね。この人たちは私が勤労奉仕で飛行場の設営に来たと思ひ込んでいるみたいだけど、私が「ここで飛行訓練するんです」と言つたら、いっぺんに態度が変わつてお茶だしてくれた。そんな思いでもありません。

初めて飛んだ時のことは教官との同乗ですね。複座ですから、飛行機によつてですが前に教官が乗つたり後ろに乗つたり。離陸して高度150メートルぐらいで直角に飛んでまっすぐ飛んで、また直角に飛ぶ。そして120度旋回して着陸する。

適性検査をうけて合格したもののばかりですが、それも人それぞれです。私は小学生的ころから運動神経は抜群だったんです。鉄棒もできるし逆立ちで歩くこともできるし、運動神経の良さは飛行機の操縦の技術に比例しますね。

八女に来た段階では民間のパイロットとしての訓練でしたが、ここにきて一週間ぐらいたつてから小学校卒業したばかりの生徒がたくさん入ってきました。こ

の人たちが本来の民間養成のパイロットなんです。この人たちは5年間かけて訓練するんですが、私たちは年齢も行っていきますから一年間です。やっぱり13歳ぐらいの少年たちなんです。しっかりしていてね。私たちも驚きましたよ。彼らはここに来る前に少し地上訓練を受けてきていました。航空に關しての教育や訓練を軍隊式にしているのも精神的にも肉体的にもしつかりしたのに見えました。不思議なことここにきて何か月か経つた頃、ちようど夏頃に徴兵検査があつた軍隊に入ったんです。看板は2枚看板です。通信省航空局の看板と大刀洗陸軍飛行学校八女教育隊の看板とで本来の若い学生たちが本当の本科生であつて私たちが操縦生という名前がついていました。それまでは民間だから階級もなしでしたが、8月末にそこを卒業した時には徴兵検査を受けた後ですから階級をもらい上等兵になりました。

台湾で実践訓練をうける

卒業して台湾に行くことになったのですが、この時にはあかとんぼから卒業して二等操縦士、二等航空士の免許をもらいました。

爆撃機にのせてもらつて台湾の嘉儀飛行場に降りて、そこから北斗に行きました。製糖会社があつて、小さい電車が走つ

ていましたよ。

高雄の南に潮州つてところがあるんですが、ここに19年の8月の終わりに行って、実用機の訓練にはいりました。今までは複葉の練習機でしたが、ここでは単葉機になります。ここは97戦(97式戦闘機 ノモンハン事変から大東亜戦争初期までの陸軍主力戦闘機)が多かったですね。2式高等練習機なんかもありました。97戦の性能は特別よかったですね。ノモンハンの時は世界で一番強かつたんじゃないかな。97戦の後に隼戦闘機ができたわね。この隼と97戦と空中戦をやる同等の力がある。97戦は脚が出たままの固定脚に対し、隼は脚がしまえるタイプだから見た目はかっこいいけど、性能は互角なんです。2機あつて、どっちに乗りかつて言つたら97戦を選ぶ人が多い。隼が有名になつたのは加藤隼戦闘隊がビルマのほうで活躍しだしてからでしょうね。

後、訓練の時に乗つたのは99高練(99式高等練習機)、単葉です。もうひとつ、95式中練(95式中間練習機)です。こいつは複葉だけど450馬力もありました。めずらしいとおもうのですがピツカース式ユングマン(キー86)てドイツ製の100馬力の練習機です。上昇回転宙返りなんでもできました。一つ欠点はエンジンの

汚れが目立ってくる。飛行中、パイプン！て不気味な音が聞こえるので、あわてて飛行場に戻って着陸することがあったことかな。整備を完璧にするのはもちろんですが、この機は構造上、エンジンが汚れやすかったんですね。台湾で射撃とか夜間飛行とかそんなことをやりました。

八女にいた時に戦闘、爆撃、偵察と分けていました。私は明野で空中戦をみているでしょう。戦争が終わったあと、民間に行くなんて考えなかった。相手と食うか食われるかの戦いをしてみたいと思っていましたからね。爆撃は民間に戻った時、大型機だから有利でしょうが、戦闘機に乗りたかったわけです。しかし、顔ぶれを見ると、操縦のうまい者が戦闘機乗りになっていきます。「俺は民間機に行きたいから爆撃だ」なんて言うならば負け惜しみに近い。操縦性はグライダーに乗ればわかりますよ。グライダーで10メートルぐらい飛び上がって、そのあと、滑空で遠くまで行くんですが、うまい者はどこまでも滑空していくんです。もちろん、遠くまで飛べば帰ってくるのに疲れるんですけど。下手なものは滑空して着陸するときドスンとなるものだから翼をささえているピアノ線が切れたりなんかありました。

台湾時代の思い出ですが飛行演習をし

ているとき、教官が飛んだあと「今日の飛行演習は中止！その女学校で運動会をやっておろぞ」というので演習を中止し運動会にまぜてもらったことがあります。

10月には台湾沖航空戦があつて空襲を受けました。この時、飛行場の掩体豪に入れとつた飛行機に向かってグラマンが突っ込んできたので、対空砲で撃墜しました。こちら一機炎上したのですが、一機撃墜しているの、やられた気持ちにはならなかったですね。ただ、その次の空襲では被害が大きかったですけど。

それと台湾は台風がよく来るでしょう。夏に台風が来て飛行機に被害が出たこともありました。立派な格納庫があるわけでもないの、機体の軽い飛行機がかなりやられたことがあります。

台湾では空襲は受けましたが楽しいことが多かった。私は熱いのは平気ですが、寒いのは何枚服を着ても寒い。台湾なら上半身裸でいても平気ですよ。

特攻隊志願

特攻を志願した時、兵庫県の加古川にいたんです。関さん（関行男 海軍兵学校70期 昭和19年10月25日、神風特別攻撃隊敷島隊長として特攻戦死 享年23歳）が特攻に出たころ、私たちは明石海峡で夜間飛行やら射撃やら、そんなこと

ばかりやっていました。だからおおよそ自分たちが特攻隊になるなんて夢にも思っていない。それが、2月ぐらいになってト号作戦が発令され、今までやってた夜間飛行なんかの練習が突っ込む練習に変わったのね。世間では特攻は命令だ、強制だと言われているけど大間違いです。若い人はなりたくてなりたくて特攻は狭き門なんです。妻帯者や、大学出てる人たちは別ですよ。中には血書で嘆願書を出したら「貴様たちは親からもらった体に分で傷つけるとは何事だ！」と叱られて特攻に行けなかった人もおります。じゃ、どんな人が特攻に行つたかという、まづ成績順。これなら文句は言えませんが、あいつは俺より成績が良かったから仕方ないってあきらめるでしょう。

私の場合、夜間飛行から突っ込む練習に変わった時、特攻隊に行きたいと思うようになりました。整列し、特攻の話が出た時、拒否するのも難しかったと思うんですが、みんな気持ちはまとまっていたんじゃないかな。「希望する者は一歩前へ！」この時、躊躇せず、全員一歩前に出ましたから。

あの時、どんどん空襲を受けるじゃない。私も関西におつたから、大阪がやられ、明石がやられ、姫路がやられ、そんな状態だったでしょう。そんな状態をい

つまでも続けるんじゃないなくて、少しでも防波堤の役目を果たしたいという気持ちが多分にあったですね。その時、名古屋の家なんか2回焼けてました。それを少しでも被害を遅くするためには俺たちがやらにやいかんと私たちは思っていました。だからみんな躊躇なかつたんです。他のものは心の中で二の足踏んだかもしれん。しかし、国のために尽くしたい。躊躇もへちまもない。文句なしに出ました。幸い私は成績が良かったし操縦もうまくつたですからね。だから一番先に選ばれたんです。

昭和20年4月22日、加古川で正式に213振武隊となりました。死ぬなんて、だいたい戦闘機乗りなら命が惜しいなんておかしいよね。ただ、心の中で空中戦をやってみたって気持ちにはあつた。特攻なら一回で終わりだけど、空中戦をうまくやれば相手を何機も落とせるでしょう。操縦がうまかつただけに残念な気もあるけど特攻隊に選ばれた名誉がある。少年飛行兵の少年たちなんてそうですよ。遺書なんてたくさんあるけれど、これ以上の名誉はないって書いております。だけど、作家の人では強制的にこの様に書かされたとか言ってる人がいる。強制的ってね、この遺書は私らの場合、遺書を書いて封をして人事部のほうで預かって、

死んだら家に送るようになっていたから、だれかの差し金で書かせるとかないです。生の心のまんまです。

知覧へ

5月25日、加古川を飛び立ち、花房飛行場(熊本県菊池市)で給油し知覧に行きました。知覧についてから出撃は28日に決まりました。加古川と知覧では指揮系統が違います。極端な人では夕方知覧について、翌朝早朝に出撃なんて例もあつた。編隊で昼間着いたけど、中には飛行機の調子が悪くて、夕方遅れて到着して寝たら夜中の3時ごろ起こされて、そのまま出撃なんてこともありました。ふうは一泊か二泊です。中には鹿児島出身だから家族と連絡とって、家族が来たら出撃の後だったり。特攻隊は自分が特攻隊だと家族に言う、言わないは自由です。でもほとんど言わないよ。親が心配するでしょう。死にいくんだから親を悲しませたくない。僕が回つた家でも100人のうち5人といなかったな。出撃前に休暇が出て家に帰るのも44振武隊だけでしょう。整備の関係で余裕がきたらしく、休暇を甲斐玉樹隊長がだして、その甲斐隊長も宮崎の実家に帰った時、辞世を残しています。「錦着て 帰るこの身は散る桜 今日見る父母の心嬉しき」航空士官学校を卒業し立派になったわが子

を見て親ははしゃいでいる。自分は特攻で死んでいくのにと、もちろん、親に自分が特攻に行くとは告げておりません。親たちにも特攻に参加すると一言も告げていない。息子が特攻に行く聞いていた親なんてほとんど会っていない。何隊でいつ、どこから出撃したのか知らされていないんです。だからよけいに知らせてやらねばと思うんです。遺書が届いたもの4月、5月に戦死しているのに、8月15日以前に家に届いたのは少ない。戦死したと発令されるのはだいぶ後です。

213振武隊は6人です。本来とはかなり違っておりまして、もともと、隊長は士官学校を出た方がなつたんです。士官学校出は職業軍人ですから10人ぐらいの指揮はできるだろうと、10人から12人ぐらいの隊が編成されます。私たちの場合、最初、その隊長を入れて10人で振武隊として発令されましたが、その隊長が結婚したばかりだったのでかわいそうだろうということなのか外されたんです。そのかわり、士官学校出でない隊長を充てたので、10人を指揮するのは難しいだろうと隊を213、214振武隊と2つに分けたんです。4月20日に編成された時と、5月25日に加古川から飛び立った時とで人が代わっているんです。知覧について出撃までの間、航法計画

をやります。どこをどう飛んでいくか。それだけで時間が無くなりませう。

出撃の日には早朝、三角兵舎で起きました。布団は絹布団ですよ。寝たことがないようなやつ。通路側に枕を向けて寝ると寝相が悪いもんだから枕が通路に落ちるんです。6月は雨期でしょう。雨が多から通路に水がたまつて、そこに枕がドボンです。そんなのが知覧基地の南西の山の中にあつたんです。

早朝起きたら樹の間から月の光線がさしてきて「これは攻撃日和だなあ」と思つたね。そこから戦闘指揮所まで歩いて行つたら、飛行機がエンジン吹かして並んでいました。戦闘指揮所、通信室は復元されていきます。

出撃直前、杯を交わしました。わたしは酒は飲まないから口付けただけですが。軍の偉い方が来ると前日に訓示を受けるんですが、私たちはそんな偉い方にお会いしていません。まあ、お決まりの話でしょうな。

離陸して沖縄まで2時間半ぐらいです。飛行機は97戦です。私らは隊長機についていきたい。4月以降、沖縄の制空権は奪われていますから、敵の飛行機も空母からだけでなく地上基地からも出ますから、その分待ち伏せしている機も多くなつてきていました。だから我々は索敵が主

体でした。しかも海上スレスレに飛んでいくわけです。上空を飛んだらすぐわかつてしまう。奴らの目は青いでしょう。海上なら海の青と一緒にわかってわからんかなあ。(注・低空ならレーダーにも探知されにくい)

私たちの武装は爆弾一発だけ。機銃も外し、無線機も隊長機以外は外してありました。戦闘機乗りを目指したんだけど、特攻を選んだ以上、この状態は納得です。みんな若かつたし、特攻隊に選ばれた名誉があります。今の人たちにはわからんでしょうけど。日本には物資もないのはわかつてるし、とにかく御国のためです。

不時着

天候さえよければ鹿児島から沖縄まで一直線に飛んで行けるんですが、それは敵に見えられてしまうので海面スレスレを30から50メートルで飛んでいきます。視界は局部視界ですよ。二千も三千も上空を飛んでれば燃料も節約できるけど、低いほど燃料の消費は激しいんです。その中で索敵をしつつ、近い距離で編隊飛行をしているので、うっかりしていると接触してしまふ。5月28日と言え

ば制空権は敵にとられとるから、敵をかむすため、こつちへ飛んで、向こうにグツと飛んでしてしましたらエンジンの調

子がおかしくなつてきて大変だ。「わかれて行け」って言われてもね、昨晚、みんな各々突つ込むんだから、靖国神社の大鳥居の所に集まつて、一緒に入ろうつて話をしてたわけね。エンジンの調子が悪くなつてもみんなと離れるなんてできない。ついていきたいばかりです。これ以上行って行つたら海没だというところまで来て、涙を吞んで皆と別れました。

別れてから高度をとつて、爆弾を落として島のある方に飛んで行つたら、島が見えたのね。そうしたらエンジンが止まっちゃつた。仕方がないから滑空して海に落ちるか陸にたどり着くかのところだったけど、なんとか辿りつけそうだったので、海辺に到着してズデーと飛行機がひっくり返つた。そうしたら住民2人が走つてきてくれて「おい！生きとる生きとる！」って声が聞こえてきて助けてもらった。ひっくり返るとき腕で額をかばつたので怪我もなかつたし、エンジンが止まつて滑空していたから温度もさがつて火が出ることもなかつた。この島が徳之島です。

特攻隊は片道燃料ガソリン半分なんて今の人は言うでしょう。ここからまっすぐ飛んで、沖縄までいったら特攻して帰つてこないから半分。じゃ、まっすぐでなく飛んだらどうなんでしょう。また、敵

を発見できんかったら、みんな海に落ちるんですか？ガソリンは引火すると威力がありますから爆弾が爆発した時、残りのガソリンに引火したら敵に与える損害もその分大きくなります。整備員もホントの気持ちとしては、一緒に出撃したい。そんな気持ちで整備しているのに燃料半分なんてないですよ。

帰るときは徳之島に海軍の水上飛行機が海軍の大尉を迎えに来ていたので、無理を言って乗せてもらい、大船まで帰ってきました。

終戦

6月6日に知覧に帰ってきましたが、生きとることが辛いから早く出撃させてくれと、せつついたけど「待て待て」と言われてね。そんな気持ちにならないのです。それで飛行機もらって出撃命令もらって「あああ、これで明日はいよいよ、みんなの後を追うことができる」と思って喜んでいたら、どしゃ降りだ。6月は雨期ですから2回そんなことがあります。僕は典型的な雨降り男だ。2回、雨で流れてしまつて6月23日、沖縄陥落とともに特攻作戦は中止です。

8月13、14日、知覧には40数名の特攻隊員がおりましたが、半分ずつ温泉に行つて来いって「いきな計らいだな」と僕は14日に出ていきました。温泉の前まで

来たらずぐ帰れつて命令が届きました。帰つてみたら「8月15日、稼働機数全機をもつて沖縄周辺の敵艦隊を攻撃すべし」つて命令でした。いよいよだなと思つて、その日は寝たんですが、夜中に起こされて、飛行地図やピストルや出せつて言われました。必要なときには返すからつていふので、みんな正直に出しました。16日も17日も何も知りませんでした。その時、飛行場に高さ1メートル、長さ5メートルの三角形の障害を並べていました。変わったことをするなと思つていました。アメリカが着陸しないようにするんだつていってたけど、その実、特攻隊が勝手に飛び立てないようにしていたんです。18日に正式に戦争に負けつたつて聞いたんです。生きて汚名を残すわけだから家に帰るわけにもいかないし、と言つていくところもないし、切腹する度胸もない。別の飛行場では飛行機で飛んで、そのまま飛行場に突っ込んで死んだ隊員もおりましたが、知覧ではそのようなことなく司令部前に集合したら「即帰れ！」何にもなしで着の身着のまま金もなしに即帰れです。金もある家にいったら旅費ぐらい出してくれたんですが、僕の前まで来て金がなくなつてもらいそびれました。その代り煙草をもらつて、これが役に立ちました。下関の駅でかっこを付け

るために煙草に火をつけ、ほとんど吸わないうちに捨てたら、駅員さんが飛んできて拾つて吸うでしょう。それで煙草を駅員さんに渡したら「どうぞ」つて乗せてもらつて名古屋駅まで帰つて来れました。大阪まで5人で満員電車のデツキにいてね。8月だけど寒かった。

10月に新聞に「第6航空軍の元兵士は退職金を与えるから取りに来い」つて出たもんで大阪で5人で集まつて司令部のある福岡までいったんだけど、僕の前で金が切れたつてもらい損ねです。新聞にでかどかどだしたんだからいくらでも用意しておくもんでしよう。でも仕方がないからそのまま知覧へ世話になつた方に挨拶に行きました。その後10月26日、第6航空軍の操縦士の退職金は国庫へ没収と新聞に出て終わりです。もらった人は3000円もらつています。名古屋大阪の往復の切符が72円ですから大金ですね。軍としての最終階級は軍曹でした。

特攻平和会館の設立

戦後、名古屋市役所で区画整理の課長をやつていましたけどね、課長のなり手は何人もいます。特攻隊の親が亡くなつていくとき、隊員の手紙とか、遺品を自分が死んだら燃やしてくれつてのが多いつてあるところから聞きまして、これは大変だと思つたわけです。これは定年まで

待つておれんと、54歳で退職しました。自分の車で日本中探しまわって遺品を集め、供養するためには知覧です。観音様が昭和30年、銅像が昭和49年にできました。平和会館はあの時、休憩所としてありました。休憩所でなく平和会館を作ったら目的外使用になります。大きな公園だから国からもお金が出ています。目的外使用になったら国に金返さないかんでしょう。だから内緒で遺品を並べた。昭和51年の事です。翌年、休憩所が2階建てになったので2階に資料を並べました。知覧の役所は特攻会館や遺品館を作ることは大反対だ。なぜならこのような施設を作ると入館料をとるでしょう。特攻隊を金儲けに使っては申し訳ないって僕の話も聞いてもくれない。空港を降りても遺品館の案内はなしです。知覧の武家屋敷の紹介はありましたが。

千円で改装して美しくなりました。今までは素人が並べただけでしたから。その時、自治省から都市の活性化を図るためにお金をお貸ししましょうとありましたので、取り上げて61年に一億七千五百万円、翌年も同じ額を借り入れました。それに私たちが集めた一億七千万円、これで今の平和会館を作りました。会館にある3式戦闘機（飛燕）これは世界で一機しかない。これが各務原の自衛隊の倉庫にあったから、私が交渉し借りることになり、陸路知覧まで運んで町の清掃のトラック倉庫にしまっておいて、翌年、平和会館が新しくできたので、展示にこぎつけ現在に至っています。（現在は岐阜各務原航空宇宙博物館にあります）旧館の遺品館から新館に移行した段階で、遺族が見つからず278名の写真が空白でした。全1036名のスペースを埋めねばいけません。協力を求めるチラシをはったところ、情報はいり、どうにか103名まで追い込んだけど、僕が鹿児島におつては出かけていくつてわけに行かんから、やめさせてくれってお願いしたんだが、やめると分かる人がいなくなるから困るとやめさせてくれない。平成7年、初めから22年経って、やっと1036名全員の写真がそろいました。

ながく平和会館の顧問をしておりますが平成19年、知覧が合併により南さつま市となり、これをきっかけに顧問をやめました。

海軍航空隊の記念館は鹿屋にあります。特攻隊の記念館ではないので、遺族の方に「陸軍はいいですね。海軍はそういうものがないから悲しいです」って言われたことがありますよ。鹿屋の場合は国の予算でやっていますから、特攻隊員の写真を持っていくといい顔されないうつて遺族の方から聞いたことがあります。

特攻おばさん 鳥浜トメさんのこと

「俺はきみのためにこそ死にいく」って映画は知っていますか？あの映画の脚本は私が目を通しています。ここに監督とか助監督とかプロデューサーとか来て打ち合わせしたのち撮影に入っています。

石原慎太郎本人も特攻おばさんと何度も会って話をしていきますが、もし、特攻おばさんの言葉を間違つて感じていたら申し訳ないってことで、脚本に目を通してくれと言われました。

あの方はどなたにも面倒見のいい人。だからよく言わない人もいます。戦後、アメリカが知覧に駐留してきたとき、アメリカの若い兵士の面倒もあの人が見とつたんです。でも、面倒みなかったら町の

人への風当たりはどうなるのか。とにかく知覧の人は特攻隊を信用しています。あれだけ集まっても、町の娘さんでおなかの大きくなつた人は一人もおりません。アメリカ人が来たら途端に黒人の子供が生まれた。特攻隊への信頼があるんです。三角兵舎からでた兵士たちが特攻おぼさんの顔を見て、おのおの世話をしてくれるうちに行っていました。

当時、おぼさんは食堂をされていて、特攻隊をかわいがりすぎて憲兵から殴られたこともありました。おぼさんが亡くなつて弔辞を読んだんですが、おぼさんの体を見たら、殴られたような痕跡がありました。アメリカ人までも面倒を見たのは金儲けのためだろうっていう人もいますが、実際には身銭を切つてタンスやら売つてまでして隊員に食わせたりしていたんですよ。私はおぼさんの事を尊敬しています。地元としては味方も敵もおるのですが、隊員や遺族にしては面倒見てもらえたこと喜んでおられると思います。特に石原慎太郎さんなんかは、おぼさんに国民栄誉賞を与えるとか動いてましたね。本当のことを伝えたい

特攻つていうのは生きて帰ってくるのは恥だと、生き残つた者は思っています。知覧の特攻観音にもお参りに来ない。慰

霊祭にも出てこない。郷里でひっそり亡くなつていつています。そんな気持ちじゃ長生きできない。

私を含め知覧で出撃生還した者6人で第6攻撃隊というのが編成され、8月18日に撃つと決まりました。みんな元の隊は名前が別々ですが、一つ一つ読み上げとつては時間がかかるからまとめられたんです。この第6攻撃隊で一人は40代で死に、50代で一人死に、60代で一人死に、70代で一人死に、2年前(平成20年)80代で一人死にしました。次、僕が90代で死ぬ番です。90代と言つても99までありますから、まだだいぶ生きられると言つてるんだけど、生き残つた人は短命なんです。

特攻隊の写真もネガでたくさん持っています。住所も名前もわからん人が多いいんです。戦後、アメリカ軍が来て特攻隊はアメリカに被害を与えたもんだから親兄弟に報復があるのを心配して、いろんなものを焼いてしまったようです。だから手探りで探しました。知覧の特攻平和会館にある1036人のうち、全部集めるのに22年かかりました。

靖国神社の大鳥居の前で集合してみんなで中に入ろうと約束して、私だけが、彼らの4倍以上生きている。生き残つた

者は特攻隊にいたことが後ろめたく思っている人もいる。私は恥も外聞も捨てて供養してやらなきゃいかん。そして後世に資料を残してやらなきゃいかん。忘れ去られたことのないように、今までやつてきたんですよ。



特攻の真実を知ってほしいと語る板津軍曹

インタビュー日時

平成22年10月19日

参考文献

・特別攻撃隊の記録 陸軍編
光人社

連載山ある記29 茨城県「豎破山」

会員 池田 康博

この山は「たつわれさん」と読む。日立市十王町にあり、標高は六百五十八m、茨城百選の一つに数えられている。山岳信仰と伝説の山であり、奇岩、巨石の山という。なかでも「太刀割石（たちわりいし）」を写真で見ても、九月初旬のまだ暑い中とは思いますが、是非この目で確かめたいと出かけた。

常磐道の日立北ICから国道60号線に入って常陸太田方面へ走り、豎破山黒前（くろさき）神社入口の案内板を見て右折、更に進むと舗装路の終点に着く。ここが黒前神社の「一の鳥居」で、付近のスペースに駐車した。

登山道は、更に五百mほど林道を上った「二の鳥居」

ハイキングコース案内図



の駐車場から始まっているが、見たところ車一台がやると通れるほどの砂利道のため歩くことにした。9時21分に

一の鳥居を出発。二の鳥居駐車場を経て、鬱蒼とした杉の森の中を歩く。登山道の脇に、後生車や不動明王を祀った不動岩があるのが如何にも信仰の山らしい。そして、烏帽子石や手形石、畳石を見ながら登って行き、明神鳥居と仁王門がある地点まで進んだ。左下には東屋と弁天池がある。ここで太刀割石への案内板が出てきたので、ちよつと遠回りしてお目当ての石を見に行つた。

伝説によると、八幡太郎義家が、奥州征伐の折、戦勝祈願のためにこの山に立ち寄つた。そして、巨石の前で野宿した際に、夢に現れた「黒坂命」から授かつた大太刀を一闪、

太刀割石



巨石が真つ二つに割れたそうだが、見ると、「確かだ」と思わせる見事な断面である。因みに、この巨石の名付け親は水戸光圀だといふ。

太刀割石を見て頂上に向かう。途中の積迦堂では甲（かぶと）石と舟石を見、積迦堂からは百八十余段の石段を登って

黒前神社に到着。ここからすぐ裏の山頂に着いたのは10時35分であった。

山頂は木々が生い茂っているため全く展望がなく、そのためか展望台が設置されてはいる。しかし、この日は生憎の曇りで、しかも展望台に立った頃から雨が降り出した。小雨ではあったが早々に展望台を降り、

山頂



山頂を反対側に見学した。その後、山頂経路で積迦堂まで降りた後、仁王門、明神鳥居をくぐつ

て弁天池まで下つた。

弁天池で昼食を摂っている時に雨もあがつたので、滝回りのコースで下ることにして、11時50分に出発した。まず、太刀割石まで戻って、ここからは案内図に従って、伐採が進んだ禿げ山の登山道を軍配石、神楽石を見、「奈々久良（ななくら）の滝」を見て下山した。一の鳥居到着は13時丁度であった。

案内図にある巨岩・奇岩は残らず見ることが出来て満足の山歩きであった。

顕彰譜 (14)

会報134号から始めた特別攻撃隊全史第二版の顕彰譜のご紹介第十四回目です。

特攻殉国の碑

陸軍海上挺進



碑文

昭和十九年、日々悪化する太平洋戦争の戦局を挽回するため、日本海軍は臨時魚雷艇訓練所を横須賀からこの地長崎県川棚町小串郷に移し、魚雷艇隊の訓練を行なった。

魚雷艇は魚雷攻撃を主とする高速艇でベリリュー島の攻撃、硫黄島最後の撤収作戦など太平洋、印度洋に活躍した。更にこの訓練所は急迫した戦局に処して全国から自ら志願して集まった数万人の若人を訓練して震洋特別攻撃隊、伏龍特別攻撃隊を編成し、また回天蛟龍などの特攻隊員の練成を行なった。

震洋特別攻撃隊は爆薬を装着して敵艦に体当たりする木造の小型高速艇で、七千隻が西太平洋全域に配備され、比國コレヒドール島沖で米國艦船四隻を撃破したほか、沖繩でも最も困難な状況のもとに敵の嚴重なる警戒を突破して特攻攻撃を敢行した。伏龍特別攻撃隊は単身潜水し水中から攻撃する特攻隊でこの地で訓練に励んだ。

今日、焼土から蘇生した日本の復興と平和の姿を見るとき、これひとえに卿等殉國の英霊の加護によるものと我等は景仰する。

ここに、戦跡地コレヒドールと沖繩の石を併せて、ゆかりのこの地に特攻殉国の碑を建立し、遠く南海の果てに若き生命を惜しみなく捧げられた卿等の崇高なる遺業をここにえに顕彰する。

昭和四十二年五月二十七日

有志一同 元隊員一同

建立の由来

昭和41年8月元隊員より散華した戦友の慰霊碑建立の發議あり、これを受けて佐世保、関西、東京において関係者が夫々相寄り審議を重ねた結果9月に元川棚臨時魚雷艇訓練所跡地に建立に踏み切った。次いで厚生省に赴き戦死者調査を行い2千9百5拾名の確認を得た。

長崎においては川棚町や地元總代に敷地確保と買取について精力的な折衝を続け、遂に郷有地一九四坪、個人所有地一〇四坪、計二九八坪の入手に成功した。

募金本部は長崎真珠会館に置き東京、大阪と連絡をとり事業の推進をした。42年4月末までに目的を大半達成することが出来た。

碑石は長崎県特産銘石「蛇紋石」を選び、更に震洋ゆかりの地コレヒドールと沖繩の石で色どりを添え意義を深めた。

幾多の方々の尽大なご協力を得て碑は完成した。建立後は新ヶ谷郷と歴代海上自衛隊佐世保總監のご好意により継続的奉仕作業をうけ碑の美化保存は会員一同感謝的となっている。

昭和60年大祭時に碑を増改築して、現在の刻名者は三三六七名となった。

特攻殉国の碑保存会

所在地 長崎県東彼杵郡川棚町新谷郷
交通 川棚駅下車・長崎空港より

バス川棚下車

建立 昭和42年5月27日

例祭 5月第二日曜日

5年毎に同右を大祭とする

守護団体 特攻殉国の碑保存会

震 洋

金武鎮魂碑



建立の由来

太平洋戦争の末期、昭和20年1月沖縄県国頭郡金武村(当時)の海岸に祖国防衛の陣をしいた第二十二震洋特別攻撃隊・豊廣部隊は敵の侵攻を受けるや熾烈なる銃爆撃下、三回の出撃を敢行した。のち陸戦に転じたが、その間に海に陸に散っていった多くの戦没戦友たちの御霊をまつり、併せて自隊だけでなく、沖縄中・北部の各地で尊き生命を国のため捧げられた陸海の将兵、ならびに戦火の犠牲となられた多くの民間人の方々の御霊を慰めるためにこの碑を建立した。

また、敵侵攻の直前、昭和20年3月14日金武湾上に於いて艇隊訓練中、B-24一機の急襲を受けた戦友の無念を慰め、後世の人々に二度と再びこのような悲しいことを繰返して貰わないよう、心より平和を祈念して建立した。

建立者は第二十二震洋隊の生存者ならびに遺族により構成されている「金武会」。建立場所はかつて部隊本部が置かれていた金武公会堂の隣地。金武区のご厚意により土地を借用し建立したものである。この碑には特定の個人名の銘記は一切してなく、正面碑文は、当時の鎌倉円覚寺・朝比奈宗源管長にお願いし「金武鎮魂碑」とのみ刻書した。また、裏面碑文は「一九七一年八月平和を祈願し金武会(第二十二震洋特別攻撃隊豊廣部隊)これを建立す」とのみ刻書してある。

この碑はあまり大きなものではないが、建立の趣旨にご賛同いただいた金武町の多くの有志の方々により立派に護持されている。

所在地 沖縄県国頭郡金武町字金武

金武公会堂隣接地

交通 那覇よりバスまたはタクシーで

約1〜2時間

建立 昭和46年7月26日

写真提供 金武町

震 洋

震洋隊殉国慰霊塔



震洋隊殉国慰霊塔の由来

国道五五号線土電バス停より徒歩三分の処に、高さ二米余、幅一、二米の花崗岩の碑が立っている。碑は太平洋に面し、高知県知事溝淵増己氏の揮毫になる「震洋隊殉国慰霊塔」の文字が刻まれている。傍に「青春」の像がある。

これが太平洋戦争終戦の翌日、不測の爆発事故によって散華した、海軍水上特別攻撃隊第一二八震洋隊の若桜一一一の柱の慰霊塔なのである。

昭和20年8月16日午後7時頃、須崎の第二十三突撃隊司令郎から夜須町住吉海岸の部隊に「敵機動部隊本土上陸の目的をもって、土佐沖航行中、直ちに出勤してこれを撃滅すべし」の命令が入った。直ちに部署につき、艇の整備にかかったとき、突然一隻が発火、これが誘爆をおこし、22隻の艇と一一一名が一瞬にして空に吹き上げられ散華した。

終戦後の大混乱期にあったとはいえ、この事件は世間に大きく取り上げられることもなく終った。夜須町では手結眞行寺に殉職者全員の永代供養を依頼するとともに、命日には地元民あい寄り、しめやかな追悼を行なった。昭和31年にいたり夜須町有志が起ち上って奉賛会を結成するとともに、各方面からの浄財五〇万円を集めて現在の慰霊塔を建立したが毎年8月16日には慰霊祭を欠かさず、町当局も経費の一部を補助している。

夜須町震洋隊奉賛会

所在地	高知県香南市夜須住吉神社登り口
交通	土佐電気鉄道バス住吉バス停徒歩三分
建立	碑 昭和31年8月16日 像 昭和56年8月16日
慰霊祭	8月16日
守護団体	震洋隊奉賛会 中村辰美
	(〇八八七―五四―二四九七)

特攻文芸

短歌・俳句・川柳の部



● 一枚の 写真と共に 逝きたいと

語りし人の 想いせつなき

淳子

● 君征きし 南の空に 桜舞え

淳

● 霜柱 踏んで喜ぶ 子供たち

● かじかむ手 息吹きかけて 暖める

ネコ

● お正月 しばし忘れる 休肝日
● 今年こそ 毎年誓う 節酒かな

ネコ



事務局からの報告等

一 令和6年度第3回理事会及び第1回臨時評議員会の実施報告

昨令和6年11月21日(木)に、第3回理事会が、12月6日(水)に、第1回臨時評議員会が、それぞれ開催され、令和7年度事業計画及び収支予算(令和7年度収支予算書・案)が審議され、いずれも令和7年度計画として承認されました。なお、令和7年度事業計画の骨子は次のとおりです。

(1) 特攻顕彰会主催等慰霊祭
ア 第46回特攻隊全戦没者慰霊祭
靖国神社

令和7年3月29日(土)
イ 第74回特攻平和観音年次法要
世田谷山観音寺

令和7年9月23日(火・祝)
(2) 各護國神社への「あゝ特攻勇士の像」奉納

(3) 全国各地慰霊祭への参加、協賛
(4) 機関誌「特攻」の発行(年5回)
(5) 特攻隊戦史他の調査研究と資料の収集

収支予算(令和7年度収支予算書)は44頁のとおり。

また、令和7年度の当顕彰会の理事及び評議員は、次のとおりです。

理事等
会長 藤田 幸生
理事長 岩崎 茂
副理事長 岡部 俊哉
専務理事

兼事務局長 石井 光政
業務執行理事 鮎田 英一
業務執行理事 福江 広明

理事 臼田 智子
理事 久納 雄二
理事 大穂 園井

理事 阿部 軍喜
監事 羽淵 徹也
監事 秋山 政隆

評議員 倉形 桃代
新垣 敬輝
太田 兼照
早川 雅彦
長瀬 彰孝
原島 淳子
岩成 真一
原 知崇
宮本 雅史
高松 真希
國分 雅宏
岩村 公史
金古 伸一
中村 敏弘

二 第46回特攻隊全戦没者慰霊祭の齋行について

第46回の慰霊祭は、靖国神社において令和7年3月29日(土)11時から執り行います。なるべく多くの方とご一緒に特攻隊の英霊に哀悼と感謝の誠を捧げたいと思います。会員以外の方でも参列できますのでお誘い合わせの上、御参集ください。

さい

慰霊祭の細部については、同封の案内書をご覧ください。参列される方は、同じく同封の「郵便払込取扱票」(会費納入用紙兼用)にご記入の上、お申込みください。

三 会報記事の訂正について

・会報一五二号(令和6年11月号)

2頁3行目

誤 理事長

正 副理事長

1頁19行目及び68頁表題

誤 理事 福江弘明

正 理事 福江広明

69頁上段7行目及び74頁下段23行目

誤 遺族会会長・茂木尚氏

正 遺族会・茂木尚氏

72頁上段3行目

誤 (34頁) 36頁

正 (77頁) 79頁

79頁下段14行目

誤 『元空の集い』

正 『元空戦の集い』

寄付者御芳名(敬称略)

(令和6年10月1日～12月31日)

(単位千円)

一〇〇〇 藤元 正明

三〇〇 御船 滋

一〇 南方 弘

会員登録(敬称略)
 ご冥福をお祈りします。

愛媛	奈良	石川	神奈川	東京	千葉
松浦	中村	松川	岩崎	山崎	池田
栄一	博	徹男	淳治	ふく	佐嘉衛
(5・6)	(6・8)	(6・11)	(4)	(4・3)	(6・8・28)

新入会員名簿(敬称略)
 (令和6年10月1日～12月31日)

愛媛	島根	兵庫	兵庫	大阪	東京	埼玉
媛	根	庫	庫	岸	村松	石山
青野	清原	阪口	石黒	拓也	享	永一郎
真礼	至	晴彦	岷規			

一〇	一〇	一〇	一〇	九	七	七	三
横山	石黒	清原	石田	奥谷	細井	鎌形	岩浅
司	岷規	至	賢一	知枝美	秀雄	あかね	博之

会員ご入会のご案内

「特攻隊戦没者に感謝と敬意を」
 当顕彰会は、先の大戦の末期、一つしかない命を、祖国の安泰と家族や大切な人のために捧げられた特攻隊員に対し「あなた達のごことは忘れません。有難うございませう。感謝します。私たちも努力します。どうぞ安らかに！」を胸に、慰霊・顕彰を行う団体です。これにご賛同して頂ける方ならどなたでも会員にお迎えいたします。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

- 当顕彰会の主な事業
 - ・特攻隊戦没者の慰霊顕彰(他団体への参加を含む)
 - ・会報の発行等による特攻及び戦没者の伝承等
 - ・特攻に関する資料の収集、調査、図書等の貸出講演会等の開催その他
- 年会費
 - ・一般会員 3000円
 - ・学生会員 1000円
- URL: <https://tokkotai.or.jp>
- QRコード



ご投稿についてのご案内

- ご投稿に際しては、次の点にご留意くださるようお願い致します。
- 1 原稿は、手書き、ワープロ、パソコン作成のいずれでも結構です。可能ならば、ワードファイル、又はテキストファイルで頂ければ幸いです。PDFファイルは編集の都合上、お受けできません。
 - 2 記事の取捨選択、紙面の都合等による一部割愛、修文等については、当顕彰会にお任せ願います。
 - 3 投稿記事に関する写真がありましたら、なるべく添付して下さい。
 - 4 原稿、写真等は、原則としてお返し致しません。必要な場合はその旨お書き添え下さい。
 - 5 会員以外の方の投稿も歓迎致します。
 - 6 投稿記事等の送付先は、左記宛てとして下さい。
- 〒102-0072
 東京都千代田区飯田橋一丁目5-7
 東専堂ビル2階
 公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
 電話 03-5213-4594
 FAX 03-5213-4596
 E-mail jimukyoku@tokkotai.or.jp

令和7年度収支予算書(損益ベース)
令和7年1月1日から令和7年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	13,147,500	13,814,000	△ 666,500	
② 特定資産運用益	475,000	475,000	0	
③ 年会費	2,100,000	2,100,000	0	
④ 慰霊事業益	1,950,000	1,800,000	150,000	
⑤ 出版事業益	50,000	50,000	0	
⑥ 広報事業益	0	0	0	
⑦ 受取寄付金	3,900,000	2,100,000	1,800,000	
⑧ 雑収入	1,000	0	1,000	
経常収益計	21,623,500	20,339,000	1,284,500	
(2) 経常費用	0			
① 事業費	20,169,000	17,591,200	2,577,800	
慰霊事業負担金	750,000	820,000	△ 70,000	
像制作負担金	2,060,000	0	2,060,000	
発送等委託費	1,900,000	1,500,000	400,000	
他団体助成金	1,800,000	1,700,000	100,000	
役員報酬	180,000	180,000	0	
給料手当	4,320,000	4,200,000	120,000	
福利厚生費	540,000	540,000	0	
旅費交通費	3,180,000	3,420,000	△ 240,000	
通信運搬費	420,000	288,000	132,000	
会議費	180,000	180,000	0	
光熱水料費	78,000	72,000	6,000	
消耗品費	450,000	360,000	90,000	
賃借料	2,160,000	2,160,000	0	
臨時雇賃金	900,000	840,000	60,000	
印刷製本費	660,000	660,000	0	
減価償却費	24,000	84,000	△ 60,000	
諸謝金	210,000	250,000	△ 40,000	
退職手当	0	0	0	
退職手当引当資産繰入	357,000	337,200	19,800	
② 管理費	8,966,000	8,880,800	85,200	
役員報酬	120,000	120,000	0	
給料手当	2,880,000	2,800,000	80,000	
福利厚生費	360,000	360,000	0	
旅費交通費	2,120,000	2,280,000	△ 160,000	
通信運搬費	280,000	192,000	88,000	
会議費	120,000	120,000	0	
光熱水料費	52,000	48,000	4,000	
消耗品費	300,000	240,000	60,000	
賃借料	1,440,000	1,440,000	0	
臨時雇賃金	600,000	560,000	40,000	
印刷製本費	440,000	440,000	0	
減価償却費	16,000	56,000	△ 40,000	
退職手当	0	0	0	
退職手当引当資産繰入	238,000	224,800	13,200	
経常費用計	29,135,000	26,472,000	2,663,000	
当期経常増減額	△ 7,511,500	△ 6,133,000	△ 1,378,500	
2 経常外増減の部	0	0	0	
(1) 経常外収益	0	0	0	
貯蔵品資産受入	0	0	0	
資産計上	0	0	0	
投資活動収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用	0	0	0	
特定資産への振替	0	0	0	
貯蔵品除却損	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 7,511,500	△ 6,133,000	△ 1,378,500	
一般正味財産期首残高	285,669,960	291,802,960	△ 6,133,000	
一般正味財産期末残高	278,158,460	285,669,960	△ 7,511,500	
II 指定正味財産増減の部	0	0	0	
一般正味財産から振替	0	0	0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	278,158,460	285,669,960	△ 7,511,500	